



NKASEN-HOSEI LDXSchool 2023-2024

中仙地域LDX School 取組について



中仙地域LDXS

- はじめに
- 中仙中の現状
- 取組の概要
- 研究会をDX
- 教科等のDX
- 校務のDX
- 委員会をDX
- アドバイザーからの助言など

“リーディングDXスクール事業”



GIGA端末を活用する全国の学校が実践できる事例を創出するために、小中高等学校約200校を指定し、GIGA端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境を十全に活用した効果的な教育実践を創出・モデル化し、地域や校種を超えて全国展開することで、全国すべての学校でICTの「普段使い」による教育活動を更に推進していこうとする事業のこと。

**GIGAタブレットが渡されてから2年目の頃。
それぞれの学校でどう使っているのか、
学校間に格差があることすら知りませんでした。**



0 何から始めればいいのか？

GIGAタブレットが渡されてから3年目。
それぞれの学校でどう使っているのか、それこそ、学校間に格差があることすら知りませんでした。

アンテナ感度の高い教員が噂を聞きつけ、電話で聞いてくる。
養護教諭伝いに健康チェックのやり方を知り、うちもできないかと聞いてくる。市の学校は全てTeamsで繋がっているとは言え、こうした状況でした。

本校の状況は、昨年までは、タブレットは保管庫にあり、ほとんど活用されていないといった感じでした。
翌年から、朝の健康チェックをタブレット入力に切り替え、朝から必ずタブレットに触れる状況を強制的につくりました。

「ICTの活用を目的化しない」という話をよく耳にしますが、
まずは、「**使うことを目的**」にしないとその先に到達できないという実感です。



0 何から始めればいいのか？

まずは使ってみよう！授業でもどんどん活用してみよう！
と使っていた矢先、このリーディングDXの指定を受けることになりました。

自分達の学校での活用がでいっぱいいっぱいでしたが、
この地域全体で活用するという「新たな視点」をいただいたのです。

そこで、指定校になっている豊成小学校ではどんな感じで使っているのか？と聞いたところ、すごく使いこなしている先生がいるではないですか！
しかし、その先生に聞くと、やはり小学校では「担任」の裁量で格差があるとのことでした。

中仙中と豊成小が指定校となり、協力校である中仙小、清水小と一緒にDX化を推進していくことになりました。



0 何から始めればいいのか？

そもそも、「リーディングDXとは何ぞや？」という疑問を解決すべく、4月最初の職員会議で説明することになりました。

資料を作ってくれたのは、豊成小の後藤先生。以前から授業でも使っているという「Canva」を使用して非常に分かりやすい資料を作成してくれたのです。



https://www.canva.com/design/DAGzBumvo04y/R6U17SBnmUBeBplm8dJA/view?utm_content=DAGzBumvo0&utm_campaign=designshare&utm_medium=link&utm_source=publishsharelink

この資料を共有してもらい、中仙中学校でも職員に説明しました。説明すると、みんなわかってくれたものだと思ってしまいます。が、実情は、わかっているけど、何をすればいいのか？という感じです。

特にこうしましょう！という働きかけもないままに1ヶ月・・・と時が過ぎていきました。



中仙地域LDXS

中仙地域の学び方・働き方をDXし、効率よく、
楽しく繋がり、教育効果を倍増させよう！

やるべきことを3つに整理し、それらをICTで繋いでいくというイメージを進めることにしました。

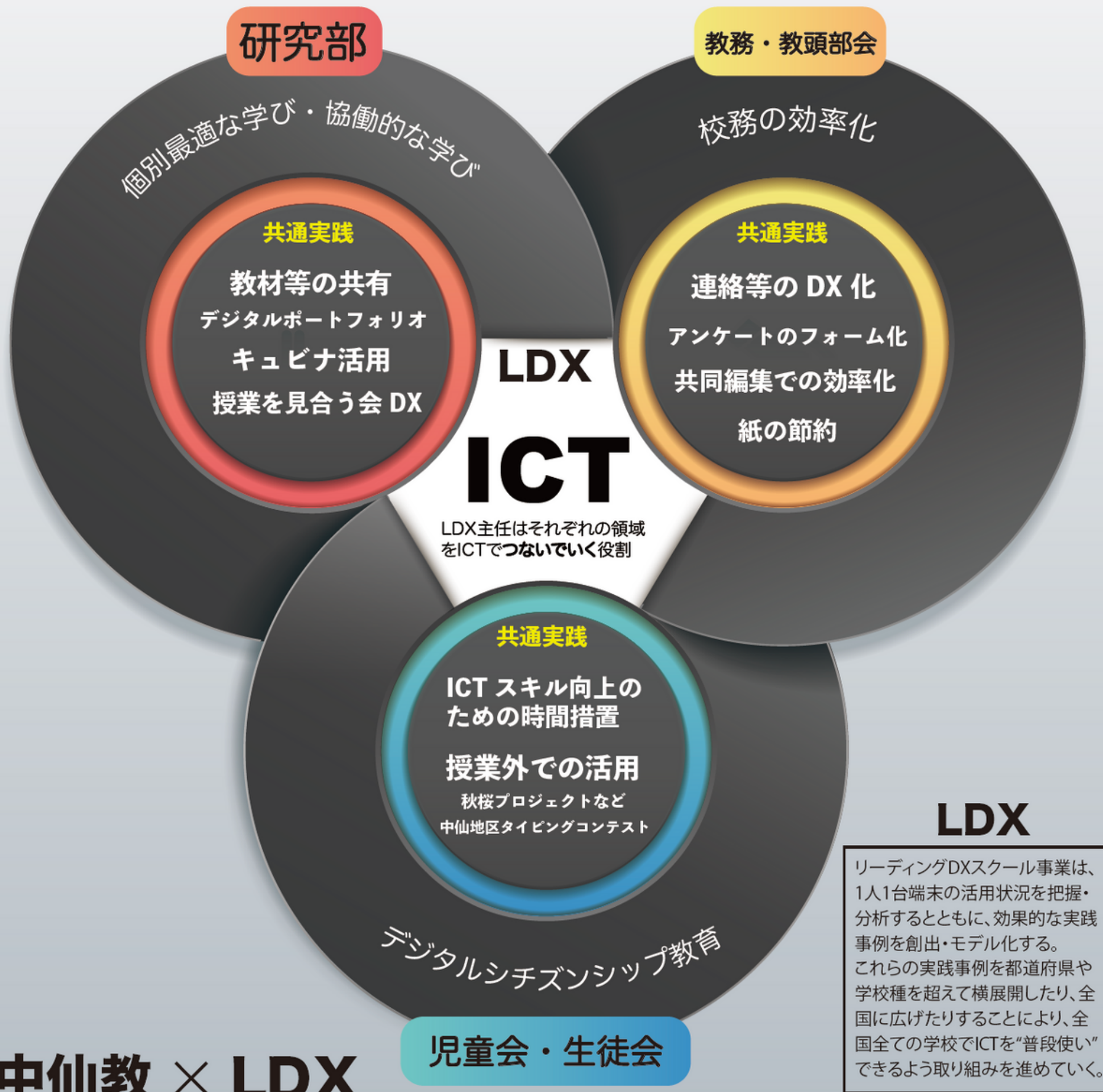
まずは、できることから

できたことを共有

みんなでやってみる

これまで「中仙教」という組織を作り、3つの小学校1つの中学校とを繋ぎ、共通実践を設けたり、授業を見合う会を随時開催し、授業力向上に取り組んできました。こうした重要な教育リソースをDXすることで、より密度の濃い、スピード感がありシームレスな連携・研究ができるのではないかと考えたのです。





まず初めに取り組んだのが、3つの小学校と1つの中学校を一つのチームにまとめるということです。

「中仙教」という組織として意識的に一つになっていたものを物理的に一つのチームに組み込むことでより俊敏な、業務を共有するプラットフォームにすることができました。

主に授業改善に関わることは研究部チーム、校務の改善については、教務、教頭チームで、デジタルシチズンシップ教育に関するものは児童会、生徒会チームと大きく3つに分けて実践を重ねていきました。

今後もっと繋がるために

- 各校のそれぞれの取り組みの見える化
- 題材や単元などの教材を共有
- 子供たち同士の関わりや成果物の披露
- 各種講演などの録画、保護者との共有

共通実践

教材等の共有
デジタルポートフォリオ
キュビナ活用
授業を見合う会 DX



中仙教DX 研究部がつながる

- ・ 授業を見合う会をリモートで繋ぐ
- ・ 指導案を共有してみんなで活用する
- ・ 地域の全職員のTeamを作成しました

数学科がタッグを組んで Qubena活用に取り組む

家庭学習での課題配布に留まらず、授業内でQubena（キュビナ）を活用したり、基礎テスト※をQubenaで行うなど、積極的にAIドリルを活用しました。CBT化※に向けた取り組みでもあります。

※基礎テスト

朝の15分程度の時間で行う基礎的な学習内容を確認するテスト（国・数・英）

※CBT化

「Computer Based Testing(コンピュータ ベースド テスティング)」の略称で、コンピュータを使った試験方式のこと。



数学科の教育専門監
を中心にして授業等で
ICT活用に取り組みま
した。

中仙教（地域の研究団体）を

DX

- 授業研究会（授業を見合う会）をリモート
- 指導案等をクラウド管理
- リモートの合同研修会

研究会 ・ 研修会



中仙教（地域の研究団体）をDX

授業を見合う会は、これまで対面にして小中合同で実施してきましたが、なかなか時間調整が難しく、見に行きたくも見に行けないという声が多くありました。そこで、中仙教DXとして授業をリモートで配信、指導案等もクラウドに保存し、いつでも誰でもどこでも見られるようにしました。全てがリモートになる訳ではなく、対面での授業研究は多くの気づきがあるので平行して続けていく予定です。若手教員のためにも、指導案や教材などをクラウドにアップし、同じ地区の同じ学年の子どもたちがどのような学びをしているの見える化することで授業力アップにもつなげていけるのではないかと考えています。

後先 宏佑先生_R5豊成小 07/14 16:29

7/18 社会科研究授業【豊成小】

配信予定 9:20~配信予定

渡邊 朋哉 校長先生_R5中仙中 佐々木 吉彦 教頭先生_R5中仙中 田中 真二郎 先生_R5中仙中 杉山 真澄 先生_R5中仙中 西村 典子 校長先生_R5清水小 藤井 優治 先生_R5清水小 桜庭 綾子 先生_R5清水小

7 1

津先 朋美 先生_R5豊成小 07/14 16:38

指導案 全度から送ります。お楽しみに！

- 表紙・日程 - コピー.pdf
- 0718 社会科指導案 (3年) .pdf
- 0718 社会科指導案 (5年) .pdf

3

参観カード	2023年10月16日
指導案関係	2023年7月13日
0718 社会科指導案 (3年) .pdf	2023年7月14日
0718 社会科指導案 (5年) .pdf	2023年7月14日
6年外国語指導案 (Unit 6) .pdf	2023年11月20日
清水小学校総合的な学習の時間協議記録.d...	2023年9月5日
表紙・日程 - コピー.pdf	2023年7月14日



中仙教（地域の研究団体）をDX

個に応じた学びネタ②

小中学校の学習内容をICT×ドリルで楽しく学ぶ！ 夏休み（7月24日）

R5豊成小学校

Qubenaとは違う形で、勉強に取り組んでみては？！児童生徒の自学に役立つサイトです！

©新・ネットの学習教室【無料】(nll.red)

詳細表示



新・ネットの学習教室【無料】
中学生や小学生がネットで自学自習できる勉強・学習アプリです。
nll.red

👍 5

すべて折りたたむ

三浦 誠 専門監_R5中仙中 火曜日 15:52
旧学習指導要領対応なのが嬉しいですが、十分有用なサイトですね。

後先 宏佑 先生_R5豊成小 昨日 9:52
指導要領の対応は、きちんと確認せず共有してしまいました。たしかに、今後はそういう観点も重要ですね。ありがとうございます！

返信

後先 宏佑 先生_R5豊成小 昨日 16:01

音読×ICT

Microsoft Teamsで音読採点！ 夏休み（7月26日）

Teamsの【課題】機能を使うと、音読の採点ができます。どの言葉で読まれたのか？どんなミス（読み間違い、読み飛ばし、つっかかり・・・）をしがちなのかが分かります。AIが音声・動画を採点し、評価してくれます。
東京学芸大学附属小金井小学校では、国語の音読課題として使用したり、ディスレクシアの児童用の練習として使用したりしていました。外国語の発音練習としても使用できると思います。特別支援教育としてもどうぞ！

詳細表示



95
1分で単語を修正する

83%
正解率

地球の地形に関する研究を自然地理学と呼びます。地形には、山と谷があります。また、氷河、湖、川もあります。地形は、物理的特徴とも呼ばれます。学生が地球の自然地理学を知ることは重要です。

季節や大気、地球のその自然作用すべては、人が

地理的な場所は、いずれかの組み合わせを使用して、どこに住むかを決定します。

Teams音読課題を初心者が使ってみた - YouTube
Microsoft Teamsの音読課題のやり方紹介です。Teamsのチーム（Class）内なる「課題」から取り組みます。#Microsoft #Teams #ICT #GIGA #教育 #課題 #授業

www.youtube.com

👍 3

リモートによる担当者会議の開催

3小学校と1中学校のDX担当者が各校の実践などを話し合う担当者会議をリモートで行いました。

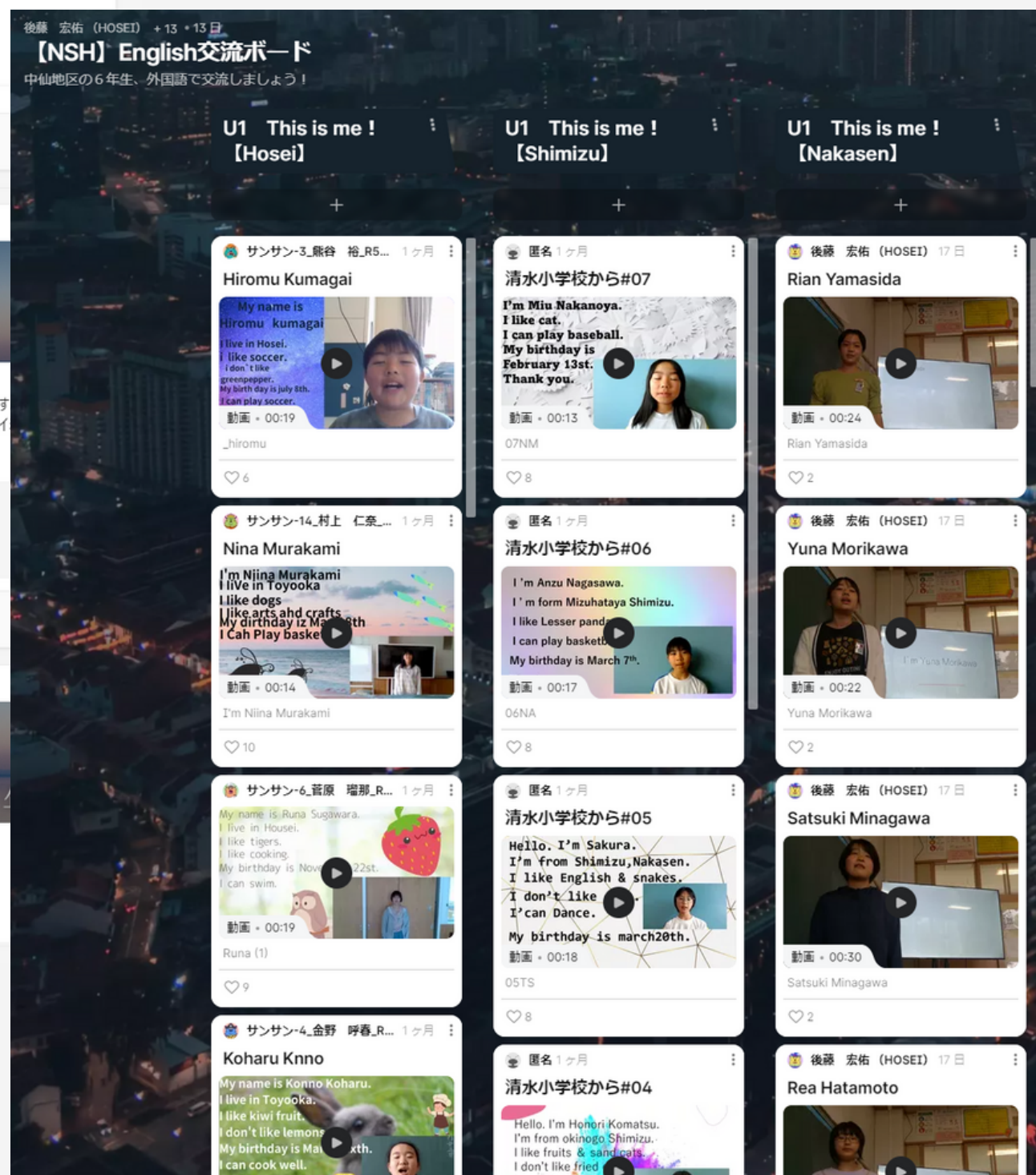
「みんなでやってみる！」を合い言葉に、「こんなアプリあるよ！」「こんな実践もあるよ！」「夏休み、みんなで取り組める課題をつくろうか？」などと、月に2回ほどのペースで開催しました。

本事業の進め方やアプリ等の情報提供の他、共通で実践する取組など、気軽に話し合う形で行いました。

気軽に集まって話ができるということのも非常に大切なことだと感じました。

地区の3小学校・学年部会をつくる

小学校協力校との実践



3小学校では、6年生の学年部会をつくり、教材研究を進めました。外国語活動では、3校の児童の発表動画を交流しながら学習を進めていました。

こうしたつながりが理想形でもあります。各学年部で教材をシェアし、職員の働き方改革につなげたり、若手育成にもつながるものと思います。

最終的に一つの中学校に進学してくることも考え、このような交流をしておくことは中1ギャップの解消にもつながると考えています。

中仙教（地域の研究団体）をDX

中仙 LDX研修 2023 

菅原弘一 アドバイザー

をお招きして・・・

講演会 & 研修会

7月27日（木）13:30~15:00
場所：中仙中学校 3F/PCルーム

各校のLDX担当、研究主任など
3名程度の先生方、おいでください。

研修の流れ
菅原アドバイザーより、中仙地域の職員
に向けて学校DXに関するお話をいた
だきます。その後は、ICTを活用した「振
り返り」について、みんなで研修をして
いきたいと思えます。

☆持ち物☆
・各教科で使っている振り返りシート
・タブレット

面談等も入っている先生がいますので、全て対面ではなく、ハイ
ブリッドで対応します。小学校からは参加できる方に来ていただ
き、あとは小学校のほうでリモート参加、録画してオンデマンド
対応もします。

この件の担当：中仙中学校 田中真二郎 0187-56-2328 



宮城教育大学 大学院教育学研究科
専門職学位課程 高度教職実践専攻
(教職大学院) 特任教授



研修会をDX part.1

LDXアドバイザーの菅原弘一先生（宮教大特任教授）をお招きして、地域全体での研修を行いました。参集して参加する方と、リモートで参加する方、ハイブリッド型で研修を行いました。

今後もこのような研修会や講演会などは地域全体のチームで共有し、職員がいつでも見られるようにしていくつもりです。

また、生徒向けの講演会等も小中の子どもたちのチームで録画し、保護者が子どものタブレットで見られるように対応していこうと考えています。

中仙教（地域の研究団体）をDX

研修会をDX part.1

対面とリモートのハイブリッド



クラウド上での意見の練り合い

学校DX戦略アドバイザーの先生を招いて行った研修会の様子です。対面とリモートのハイブリッド型の研修で、クラウド上で意見の出し合いや練り合いも試みました。

本地区の教職員が一堂に会して研修をするのは初めてでしたが、このようにハイブリッドにすることで開催しやすくなったと思います。また、研修の過程や書き出した内容もデータとして残り、振り返ることもできます。地方にある学校間連携のモデルとしても期待できるのではないのでしょうか。

中仙教（地域の研究団体）をDX



中仙地域

リーディングDXスクール 研修会 & 講演会

今年度、中仙地域（豊成小・中仙中学校）がリーディングDXスクール事業の指定を受け、日々の学校生活（校務・授業・学校間連携等）の中でICTを活用し授業改善や校務の負担削減について研究を行ってきました。今回は、これまでの取組を紹介し、どの学校でも活用できる実践やヒントを多くの先生方と共有したいと考えています。

また、この度、東京学芸大学附属小金井小学校のお二人の先生をお招きし、DXスクールの最前線の実践を紹介していただく機会をいただきました。ICTに興味のある方はもちろん、今後の学校教育やインクルーシブ教育などに興味のある方は是非ご参加ください。

演 題 **ICTを活用したインクルーシブ教育の実現**

鈴木 秀樹 先生
東京学芸大附属小金井小 教諭
ICTを活用したインクルーシブ教育の実現が主要研究テーマ。生成AIを授業で活用する研究にも取り組んでいる。【著書】ICT×インクルーシブ教育 誰一人取り残さない学びへの挑戦

佐藤 牧子 先生
東京学芸大附属小金井小 養護教諭
校内ではICTを活用したインクルーシブ教育に取り組む。学校外ではマイクロソフト認定教育インベーター、大日本図書教科書編集委員などとして活動。

リモート参加・オンデマンド希望の先生方へ
リモート・オンデマンドの方も申し込みをお願いします。
Teams内にある「教育研究所」チームのRoom 0 3で配信予定です。参加できない方でもRoom 0 3で録画された講演を是非お聴きください。

主催：豊成小学校、中仙中学校
お問い合わせ：中仙中学校 LDX担当 田中真二郎 0187-56-2328



※参加できない教員のために、オンデマンド視聴の準備を実施予定

QRコードからお申し込みください。

研修会をDX part.2

夏に視察で伺った東京学芸大学附属小金井小学校の鈴木秀樹教諭、佐藤牧子養護教諭をお招きして講演会&研修会を行いました。本地区の研修でしたが、規模を拡大し大仙市内の学校全体に告知し開催しました。

大仙市教育委員会教育研究所のTeamからライブ配信とオンデマンド視聴を行いました。市内の学校が繋がっているからこそできる研修会となりました。

他教科の研修会や講演会等もオンデマンド視聴できるものは積極的にこのTeamを活用できると有益だと感じました。（著作権や肖像権等の課題をクリアする必要あり）

中仙教（地域の研究団体）をDX

研修会をDX part.2



インクルーシブの視点とAIについて

講演の内容は、「ICTを活用してインクルーシブ教育の充実について」と題して、子どもを主語にした授業作りを考えていくと自然とICTを使っていくことになるというもの。困難を抱える子どもにどのように支援していくべきか、すべて一律に指導するのではなく、子ども一人一人に寄り添った指導をする（side by side）考え方とICTは非常に親和性が高く、今後の授業の在り方を考える上で大変参考になりました。

また、生成系AIの活用については、文部科学省から暫定的なガイドラインは出ていますが、まずは大人がどのように使っていくかを子どもに見せることが大切だというお話をいただきました。



中仙教（地域の研究団体）を

DX

- 各教科でのICT活用例
- 振り返りでの活用例
- 個別最適な学習について

教科・授業



美術科

田中真二郎先生の場合

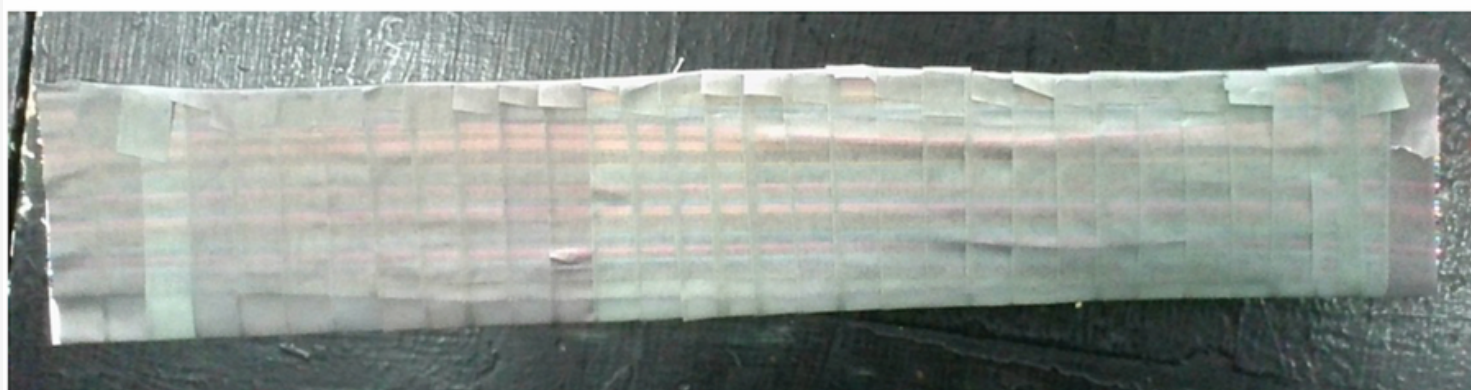


Powerpoint

写真・動画を用いた振り返り「デジタルポートフォリオ」

5 時間目

【「緊張」のイメージを自分にあった方法で表して考えてみよう】



☆授業中、写真（動画）を撮影して制作の様子を記録しましょう。
☆振り返りを記入するときに、撮影した写真を一枚貼り付けます。

①やってみたこと（学びに向かう力・意欲）

たくさんの糸を使って、いつもの感情を表し、上から黒と灰色のマスキングテープを使って、緊張しているときの感情を表した。わざときれいにはらなかった。糸をぴんとのばして神経が張りつめている感じを表したかった。

②発見したこと（知識・技能）

マスキングテープを上からはると、糸の色がすけて見えて、いつもの感情が見え隠れしている感じがした気がする。

③次回の挑戦

今まで、やったことのないことをやる。

④その他（メモ・疑問・用意するもの）

結果として残る作品も大切ですが、学びの過程はもっと大切なので、1時間ごとにPowerpointでまとめ、自分で学習の計画も立てさせました。最終的には、8時間分の自身の振り返りをまとめ、2分程度でプレゼンしました。

デジタル版のポートフォリオとして、評価する際にも役立ちますし、子ども自身が学びを俯瞰して振り返ることができます。

美術科

田中真二郎先生の場合



Padlet

写真・動画を用いた振り返り 他者参照の有効性

田中真二郎先生 + 33 • 11日

1年1組 美術の授業記録

考えたこと、気づいたこと色んな見方考え方を記録します

対話による鑑賞 クオ・ヴァディス

真ん中にいる人は戦争で、戦場に送られた軍人で重症を負って生死の狭間をさまよっていて
左側は、戦争で逃げようとして海に飛び込もうとしている人たち
右側は、戦後の町
真ん中の人は生きるか死ぬでいうと死掛けている

戦後の世界で左に行けば死ぬ、右に行けば生きる。でもどちらにもメリットデメリットがあって死ぬば楽になるけどもう何もできなくなるし、生きればいけるけど戦後だから一

造形実験4 自分にあった方法で考える

喜びを表現するとき、黄色や赤をよく使いますが、あえて青や緑の色をつけました。ただ丸く円を描くのではなく、筆を何回か紙に点々つけて描くことを工夫しました。

造形実験5 自分に合った方法で考える

名前描いてくれ〜！とってもいいことを描いてますよ。淡い色は喜びというよりも安心……。安心も喜びと近い意味っぽいね。

喜び

動画 • 00:54

WIN_20231020_10_20_52_Pro

水と着色塗料を使って喜びを表しました。ちがう色を入れた時が爆発したような感じでした

造形実験6 自分に合った方法で考える

田中真二郎先生 2ヶ月

匿名 3ヶ月

1時間ごとの授業の振り返りを共有し、自らの学びを俯瞰するとともに、学びを自己調整する力を高めたいと考え、Padletというアプリを使用しました。1時間ごとの振り返りを写真、動画とともに記録してコメントを入れ、掲示板に貼り付けるといった感じで使っています。他者参照できる上に、子ども同士でコメントを入れることもできます。他者の振り返りを見ることでより深い振り返りになると感じています。

体育科

動画を用いた振り返り

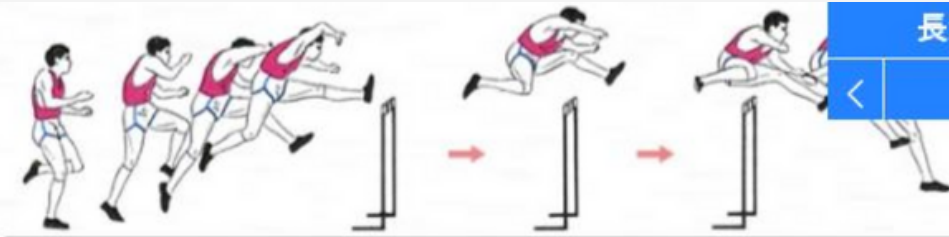
伊藤蓮先生の場合



MetaMoJi Classroom



陸上競技【ハードル走】



単元目標		リズムカルな走りでスムーズに走り、タイムを縮めよう			
時	学習課題	課題に対する自分の答え	振り返り(出来たこと・良かったこと・次の課題・動きのポイント・参考になったこと等を具体的に)	本時の走り(動画)	歩数、 下げ足
1	ハードル走で大事なことはなんだろうか?	歩幅を合わせてリズムよく走ること	飛び越えるために高く飛び歩幅を合わせることが大切だと思った。10歩、右、左 高く飛ぶとタイムはどうなりそう?		
2	踏切位置はタイム短縮にどのように関係しているだろうか?	低い体勢で飛ぶこと 遠くから踏み切る=低い体勢になると言うことですね	またぐために低い体勢を意識してあまり近くで飛ばないこと。		
3	ハードルを越える姿勢はどのようにするとよいだろうか? ~足と上半身に注目して~	体を前に少し斜めに倒して超えること	姿勢を低くして足に顔を近づけてハードルを飛び越えることが良いと思った。 笑いなす!		
4	リズムよく跳ぶためにハードル間の走りはどうしたらいいだろうか?	歩幅を合わせること	足に手を付けるようにハードルを飛び越えるようにしたいです。歩幅がたまに合わないときがあるのでは歩幅を合わせる練習を頑張りたいです。 リズムで歩幅		
5	まとめの走りをしよう ~自己の課題に合わせて~	歩幅と姿勢を低くすること	ハードルのギリギリを飛び越えるようにしたら、タイムが少し縮むと思いました。 その通りですね!		
単元を通しての振り返り		うまく飛び越えるには、タイムを速くするのも大切だけど姿勢を低くすることや歩幅などただ飛ぶだけではなく、いろいろなことを組み合わせて飛び越える事がいいと思いました。 試行錯誤のあとがよい単元だね!			

陸上競技の振り返りシート (MetaMoJi Classroom※)

体育科ならではの取組として、動画を振り返りに用いています。ビジュアル的にも変化が分かりやすく、これまでの自分の工夫点や成長が見て分かるので、さらに自分を高める意欲にもつながると思います。評価する際にも有効です。

50MHタイム 10.32 - 50Mタイム 8.56 = 1.76 *good!*

※MetaMoJi Classroomは、シンプルなノート機能から、高度な協働学習まで幅広く柔軟に対応できるリアルタイム授業支援アプリ (大仙市内の小中学校で導入されている)

社会科

まとめと振り返りを一緒に

湊智雅先生の場合



MetaMoJi Classroom

地理 第3編 日本のさまざまな地域 第3章 日本の諸地域 (2-4③) 2年 組 番 氏名

大単元を貫く学習課題 日本にはどのような特色の地域があり、人々の暮らしはどのように営まれているのだろうか。

中国・四国地方：単元を貫く学習課題
交通・通信の発達によって、中国・四国地方の人々の暮らしはどのように変わってきたのだろうか。

交通・通信の発達によって、中国・四国地方の人々の暮らしはどのように変わってきたのだろうか。(単元の初めの考え・自分の予想)
本州から離れている四国地方もあり、交通の面では不便なことがあったと思う。しかし、近年では急激にインターネット技術や交通技術が発達して交通や物資の運搬もよりスムーズに行えるようになったのではないかと。また、中国四国地方は山脈や海に近いということもあり、様々な特産品や自然も豊かなのではないかと。それにより多くの観光客の移動が盛んであると考えた。太平洋ベルトも通っていたと思うので製品や燃料の運搬にはふねをつかうこともできそう。

中国・四国地方の産業は、交通とどのように関係しているのだろうか。(中国・四国地方①まとめ)
工業の面では交通が発達したことで海上輸送がしやすくなった。それにより製鉄所や自動車、石油化学コンビナートができ、瀬戸内工業地域(重化学工業)が発達した。水産業の面では中国・四国地方の瀬戸内海は穏やかな海であるという特徴を利用してまだいよかきなどの養殖が盛んである。農業では降水量が少ないため、ため池つくるなどの工夫が見られる。また温暖な気候を生かしてナスやピーマンなどの促成栽培もおこなわれている。中国・四国地方では本州四国連絡橋や高速道路の発達により大都市圏に早く出荷できるようになった。

交通が発達したことで、中国・四国地方にはどのような課題が生まれたのだろうか。(中国・四国地方②まとめ)
交通が発達したことで本州・四国間の通勤・通学や買い物がしやすくなった。一方で高速料金や渋滞の発生、フェリー便の廃止で島の交通が不便になるなどの課題がうまれた。また大都市に人が吸い寄せられるストロー現象により商業が落ち込むなど、産業が衰える過疎化も進んできた。

中国・四国地方の人々は、過疎化とどのように向き合ってきたのだろうか。(中国・四国地方③まとめ)
通信技術や交通整備により、地域を活性化するための町おこしや村おこしが行われている。インターネットを活用することで過疎化により高齢化社会になった地域でも高齢者が活躍できるようになり、産業が盛んになっている。また交通整備をしたことにより、観光客を呼び入れるための工夫や地域の特徴を世界に伝える取り組みをすることで全国の多くの人が注目し、足を運びやすくなった。

交通・通信の発達によって、中国・四国地方の人々の暮らしはどのように変わってきたのだろうか。(単元を終えての考え・自分なりの考え)
本州と四国の間にある瀬戸内海に、東西方向の航路が整備され、人や物の移動を支えてきた。今では島々の間にも橋がかかれ、本州と四国は3本の道で結ばれている。また情報通信網が整備され、離島の学校に通う生徒が通信機器を利用してしまからはなれたがっこうの生徒と一緒に授業を受けられるようになるなど、新たな交流も生まれている。
1980年代末から瀬戸内海に本州四国連絡橋が開通したことにより中国地方と四国地方との結びつきが強まった。また高速道路などの建設により地域間の移動時間が大幅に短縮された。また情報通信網の整備も都心部から産地の山間部や瀬戸内海の島々にも広がっている。移動時間短縮により他地域への通勤通学が増えた。また、産地を超えて買い物をする人も増えた。バスの路線も新設され、二つの地方を観光や買い物で行き来する人が増えた。このように都市の間が交通網で結ばれた結果ストロー現象も起こった。地方や農村のン商業が落ち込むという課題も生まれた。
瀬戸内の都市は主に城下町を起源として発達した都市である。瀬戸内工業地域では石油化学コンビナートが形成され、重化学工業を中心に、日本の経済成長を支えている。
温暖な気候を生かして野菜や果物の生産も行われている。促成栽培やブランドのくだもの生産が盛ん。また瀬戸内海の海岸線に囲まれた地域は魚介類の養殖に適しており、全国的に有名な農水産物がたくさん生産される。交通網の発達により、新鮮に短時間で出荷することも可能になった。
インターネットを利用して過疎化が進んでいる地域では町おこしや村おこしを行っている。

単元の学習を終えての感想・振り返り
温暖な気候を生かして促成栽培を行うことは九州地方との共通点だと思った。さらに、中国・四国地方では交通網の発達により全国や大都市へ短時間で出荷できることも分かった。瀬戸内海を利用した生産物の輸送はこの地方ならではの特徴であると思う。また、瀬戸内海沿岸では交通が便利であることから工業の発展や養殖などの発達もあった。ほかの地域で学んだことと、新たに分かったことを結び付けて気づくことができたのでさらに地方の勉強をするときにはいろいろな知識と結び付けて学びたい。ぱどれっともたくさんのマークがついてきてよかった。パドレットからも瀬戸内海にたくさんの重要な地域があることが読み取れた。そして、重要なことを自分でまとめることで学習の身に月につながる。毎回振り返りに書いているけれど。パドレットを使った学習はとて面白いと実感している。関東地方ではどの視点からみるか楽しみだ。そして学びあいを通してもっとその地域の特色や重要な点をおさえられるとよい。そして、これまでの学習と比較して新たな発見をしたい。

視点①単元の初めと比べて、考えが変わったこと。	視点②単元の学習を通して、新しく分かったことや発見したこと。
視点③学び合いを通して、友達から学んだこと。	視点④調べたことを Padlet にまとめてみて、得られた成果について。
視点⑤今回の単元(中国・四国地方)の学習を、今後の生活にどう生かしたいか。	視点⑥次の単元(関東地方)の学習に向けて、頑張りたいことや意気込み。

社会科の振り返りシートを試行錯誤しました。まとめも振り返りも1枚で完結するシートで構成するように作成しました。社会科でも地理と歴史で振り返りのシートの形式は違います。今年度はこのようにしてまとめさせましたが、次年度はもう少し改良を重ねて取り組んでみようと考えています。大単元を貫く学習課題も意識させながらも単元で何を学んだかをしっかりと振り返ることができたと思います。

社会科

授業スタイルの変化

4月の社会科の授業風景（写真上）です。授業の中に個別最適な学びをどのように位置付けるのか、日々考え実践を行なってきました。知識を教え込むというスタイルから、生徒自身が好きなタイミングで情報にアクセスし、多様な情報源を基にして協働的に課題に向かっていく姿になるための授業を目指して授業改善を行ってきました。夏休み以降の授業風景（写真中、下）です。Webページや教科書、資料集など多様なリソースにアクセスし情報を見つけ、自分の考えを伝え合い、練り上げていく姿へと変わってきました。

他の教科でも、初めは「教師の指示でタブレット端末を使わせる」という状態でしたが、次第に生徒自身の好きなタイミングでタブレット端末を使用するようになってきています。Teamsで配信された情報や協働編集したエクセルデータなど、生徒にとって必要な情報にアクセスする習慣が身に付いてきています。



湊智雅先生の場合



4月の授業風景



クラウドに保存したまとめや他のグループの考えを参照していたり、教科書から情報を得たりしている様子



数学科

三浦誠先生の場合

数学科 教育専門監



授業内でのQubena活用・基礎テストをQubenaに

適用問題でQubenaを活用すると次のようなメリットが生まれます。

- 1 誰がどの問題で間違っているのかを踏まえて評価問題を解く際のフォローが必要そうな生徒を自動で見極められる。
- 2 全体の正答率がどうなっているか確認できるので、全体で間違いやすいポイントだけに絞って確認することができる。
(答え合わせの時間短縮にもつながる。)

もちろん、自動採点なので生徒が自分で間違い直しができるというメリットはそのまま生かします。

ワークブックで適用問題を与えるとQubenaマネージャーで下のような画面が見られます。
誤答した生徒の名前を表示にチェックを入れると、1のメリットが生かします。

22:27 6月21日(水) daisen.qubena-mapp 48%

中山中学校

算数・数学 サポートサイト 新着情報 問題を報告する 三浦 誠

配信詳細

連立方程式の解き方③練習問題

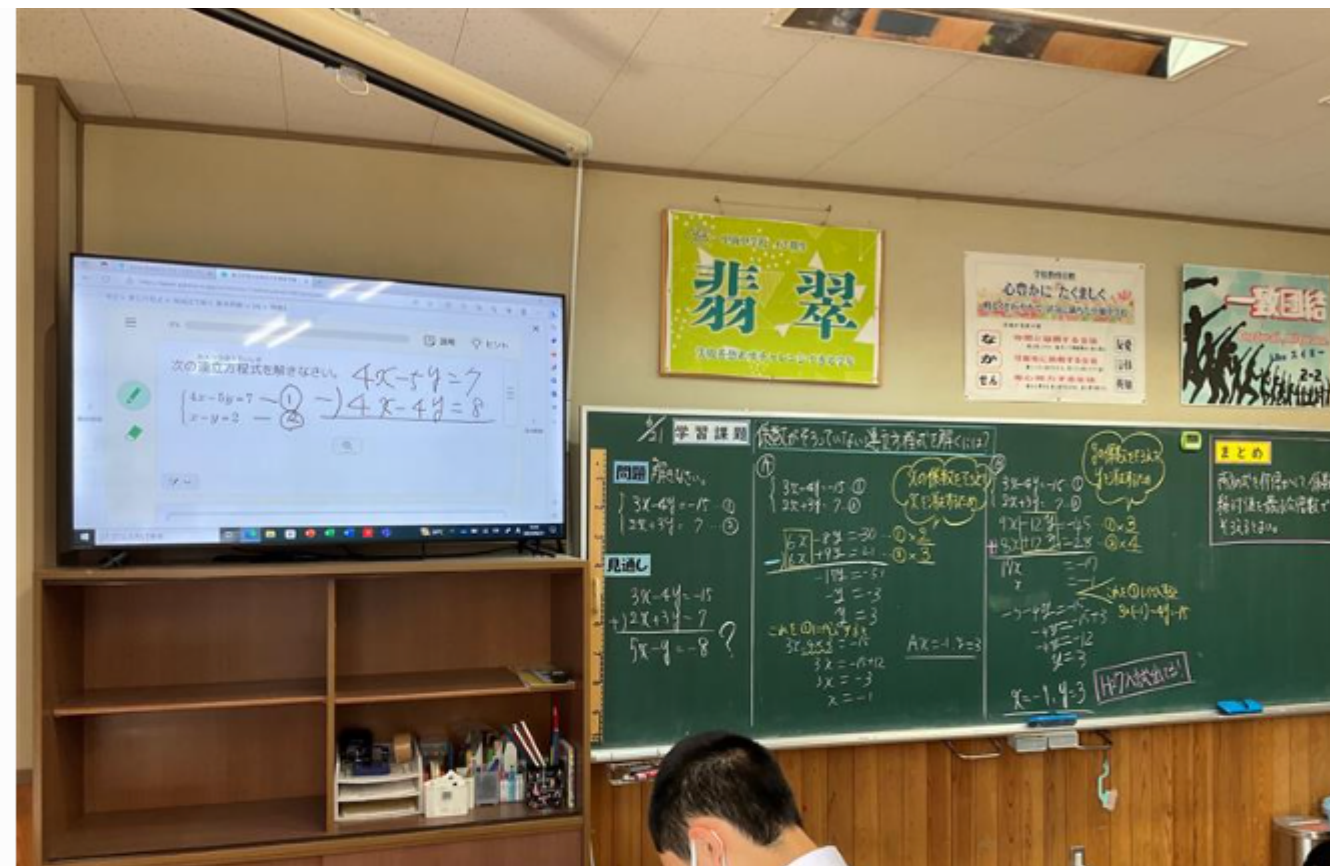
配信先	目標時間	説明・ヒント	配信期間	配信状態
2年2組	5分	表示できる	2023/06/21 07:55 ~ 2023/06/30 23:55	● 配信中

生徒の学習履歴 問題の解答数・正答率

確認パート 指定パート 指定問題 自動出題された問題 復習パート

誤答した生徒の名前を表示

出題順	問題名	解答した生徒数	正答率	誤答した生徒
1	中2 > 連立方程式 > 加減法で解く 基本問題 > 16 > 類題1	25/33人	68%
2	中2 > 連立方程式 > 加減法で解く 基本問題 > 18 > 例題	11/33人	90%



Qubena※（キュビナ）を授業内で活用しています。生徒個々のつまづきを見とる際に有効活用しています。自動採点ですので、負担感もなく、その時間を他の生徒の指導に費やすことができます。

※Qubenaは、AIを搭載し生徒一人ひとりの学習中の計算過程や解答を分析することでつまづく原因となっているポイントを特定し、その生徒が解くべき問題へと自動的に誘導し効果的で効率的な学習を実現するアダプティブラーニング教材。

数学科



自由進度学習を取り入れた単元構成

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して、1年数学「比例と反比例」を次のような単元計画で学習した。

1. 関数について従来型の授業で学習する。
 2. 一人一人、単元課題を設定する。(図1)
 3. 毎時間、学習方法を選択しながら、比例と反比例の基礎・基本について個別に学習する。(図2、3)
 4. 学んだことをレポートにまとめる。
 5. 学習したことを踏まえて、比例と反比例の利用を従来型の授業で学習する。
- 学び方は、徐々にQubenaを選択する生徒が増えていった。客観的な評価がリアルタイムで更新されていくため、習熟度と進捗状況を見ながら、内容ごとに全体で確認する時間を適宜設けることができた。
 - WordやMetaMojiでまとめた生徒のレポートは、クラウド上で全員の作成過程が見られるようになっていたため、他者参照しながら、自分のレポートに足りない部分を、教科書やインターネットなどで更に調べて補うなどしていた。
 - レポートの最後には、学び方を学ぶことができたという生徒が多かった。
 - 単元末の秋田県単元評価問題の結果から、通常より短時間で従来型の授業と同程度の学習成果を上げることができたといえる。

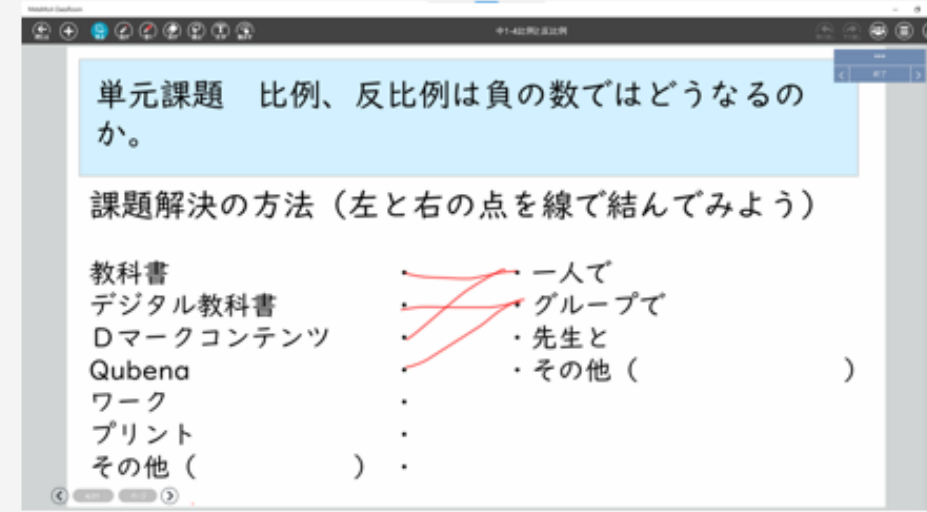


図1 単元課題の設定と学び方の見直し

	10/27	一人	ペア	グループ	先生	その他
教科書		選択			選択	
デジタル教科書						
Dマークコンテンツ						
Qubena	選択	選択	選択	選択		
ワーク						
プリント						
その他		選択				

図2 1時間ごとの学び方の選択

	平均	生徒ごとの習熟度と進捗	完了した生徒数
1 関数 基本問題	A	<div style="width: 100%;"></div>	13 / 13
2 関数 標準問題	A	<div style="width: 85%;"></div>	11 / 13
3 実数 基本問題	A	<div style="width: 85%;"></div>	11 / 13
4 実数 標準問題	A	<div style="width: 77%;"></div>	10 / 13
5 比例 基本問題	A	<div style="width: 92%;"></div>	12 / 13
6 比例 標準問題	A	<div style="width: 85%;"></div>	11 / 13
7 比例の式を求める 基本問題	A	<div style="width: 92%;"></div>	12 / 13
8 比例の式を求める 標準問題	A	<div style="width: 77%;"></div>	10 / 13

図3 Qubenaの取組状況

その他、取り組んだこと

- ・これまで各小学校のある地域をフィールドに展開してきた総合的な学習の時間。各小学校の年間指導計画を集め、統合してみたり、アウトプットの方法について検討したりと、より系統的に学びが展開できるように現在取り組んでいます。



この他にも様々な点で「共有」や「協働」が可能になってくると思われます。その可能性についても今後、つながりながら、活用しながら模索し、行動に移していきたいと思っています。

「使うことを目的に」して、日常的に活用が進んできたら考えること

授業において

一番に考えなければいけないのは、

「子どもが主語の授業になっているか？」

- ・何のために、「ICT」を使うのか？
- ・どんなねらいのために「ICT」を使うのか？
- ・「ICT」を使った結果、どんな効果があるのか、または力が身につくのか？

時間短縮？共有化？価値づけ？

知識の定着？思考の深まり？表現力育成？



LDXを受けて感じたこと

ICTの活用・・・> 授業観の変革に行き着く

今までの当たり前を疑う

 **個別最適化**

インクルーシブ教育の視点から考えてみる

side by side



教員が全体に対して一斉に指導内容を話し、同じペース・同じ教材・指示された同じタイミングで話しあいながら子供達が学ぶという当たり前の学校風景でした。GIGAスクールで一人一台タブレットを得た今、こうした「共時性」の学校社会から子どもたちを解放し、もっと自分に合ったペース・環境で学び、自然なタイミングで協働しながら学ぶ授業を作っていけるのではないかと・・・と思います。



共通実践

連絡等のDX化

アンケートのフォーム化

共同編集での効率化

紙の節約

• 徹底した効率性

ワンアクションをリンクさせる

校長先生



意識づけ・発信

職員への意識づけも兼ねて、リーディングDXへの理解を深めるよう毎月校長から発信しています。

教頭先生



情報共有とグループ化

職員間の連絡事項を一斉、グループ、個人などチャットやチームへの投稿で行なっています。地区の教頭部会などもチャットグループを作成して情報共有しています。

教務主任



紙からデータへ

年間数千枚の紙を節約するために、職員会議資料は全てデータ化して、職員チームに配信。紙媒体が欲しい人は各自で印刷することにしました。

校務をDX

- 職員会議をDX
- 生徒の出欠管理をDX
- 各種報告、申請をDX
- 地域課題（熊の出没情報）をDX



クラウドを活用したリアルタイムのクマ目撃情報の共有と注意喚起



佐々木教頭の場合

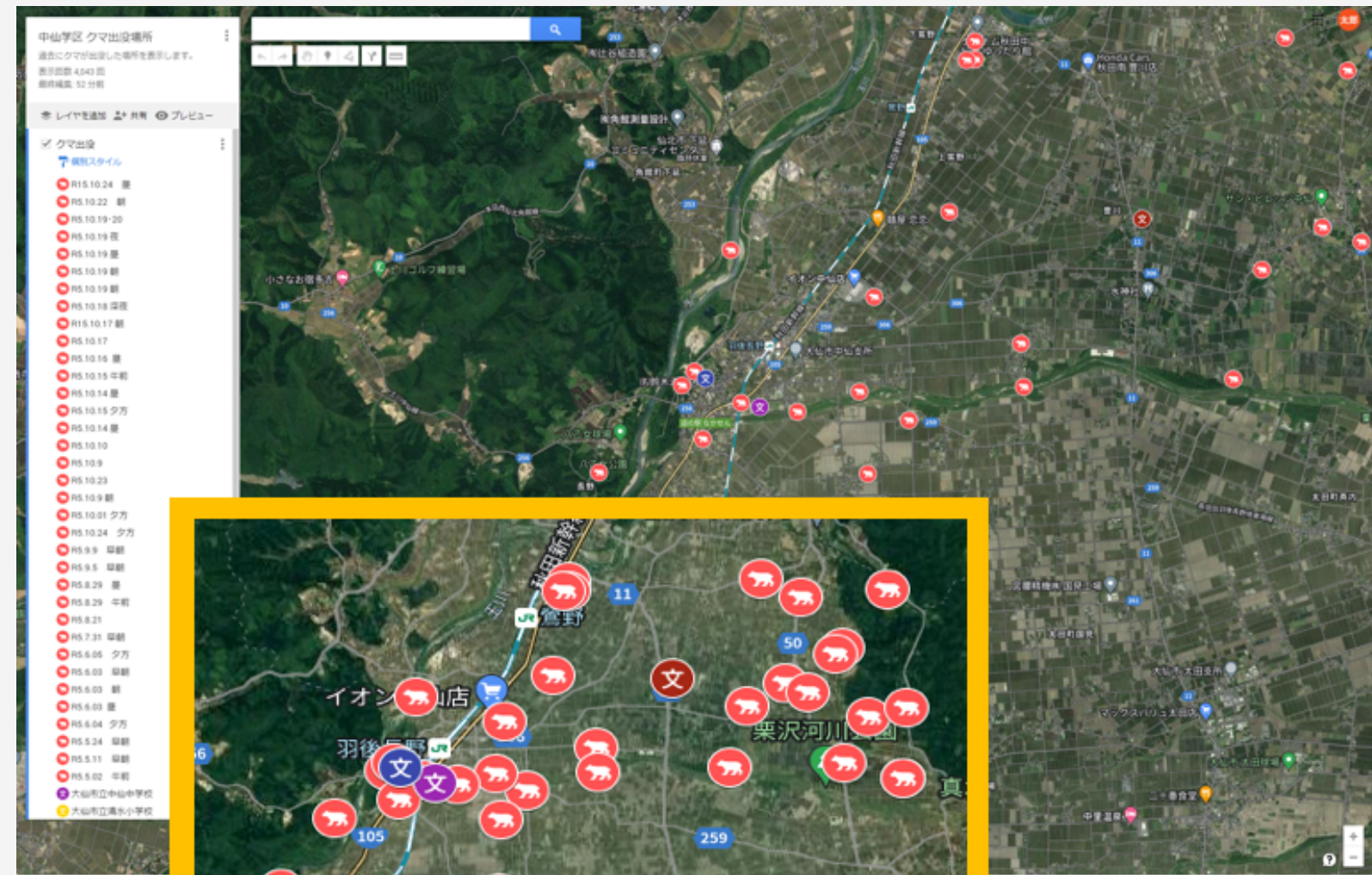
PTA主催の講演会にICT関連企業の方を招き、生徒、保護者、教員でGoogle Mapsを使った研修を行いました。

当初は、通学路の危険箇所をGoogle Mapsに反映させ、情報を共有しましたが、この機能を活用し、山間部特有の課題である熊被害の防止対策としてリアルタイムで目撃情報を共有し、注意喚起を行うシステムをとりました。学校に寄せられた情報は教頭がすぐにアップロードして、保護者連絡メールにリンク先を添付、生徒用のチームに流すようにして、随時、最新の出没箇所を確認できるようにしました。

こうした危険箇所や注意情報、地域住民からの連絡など、視覚的に分かりやすくするため、また情報の蓄積の目的も含め、クラウドを活用して整理することの有用性を感じました。生徒が学校生活の中で「このような活用もできる」という経験を重ねることでさらに発展した活用法を見出すことを期待しています。



PTA講演会での研修の様子



これまでの出没場所の蓄積

クラウドを活用した業務プロセスの改善と連絡業務・小中連携の効率化



1. 情報共有・共同編集・Formsの活用によるクラウド活用型業務プロセスの確立と経費節減

- ・入力用ベースシートを作成し、必要な情報を職員で共有かつ共同編集を行い、職員間の連絡の手間を削減。
- ・共同編集により、二重入力、転記ミス等を防止し、各種計画作成・サービス管理・各分掌業務の立案を効率化。
- ・職員の出張伺提出をForms入力へ変更。事務担当の二重入力を回避。授業DXと校務DXにより、印刷関連経費を節減。

(前年度比:印刷用紙使用枚数38%減・コピー料金18%減)

2. 欠席連絡・感染症対策・悩み相談への対応と各種アンケート等、生徒・保護者との連絡業務を効率化

- ・欠席連絡、相談を保護者がFormsに入力することにより、電話対応業務が大幅に減少。コロナ・インフル等、感染症流行時には、一覧表を職員で共同編集し、状況を把握。情報を共有し、流行を見極め、学級閉鎖・休校の判断基準とした。
- ・長期休業中は生徒の健康観察Formを作成し、休み期間の悩み相談に対応するなど、生徒指導面で活用しました。
- ・各種アンケートやPTA学習参観日の出欠連絡や各種集計を全てFormsで実施し、集計業務を簡素化。

3. 小中事務作業の効率化と危機管理情報の共有

小中担当者による行事日程の調整やALT派遣計画、入学関係事務等をファイル共同編集により効率化。クマ出没マップで、学区内で危機管理情報の共有を行いました。

① 年間計画ベースシート (教育計画・サービス管理・各分掌でデータ活用)

日付	曜	R6行事等 (黒文字確定・青文字仮入力)	出張	給食・バス・各種締切 他
5/7	火	教育実習①~27日 (養護教諭)		学校経営要覧校内締切
5/8	水	桜守活動1年? 歯科検診2年		
5/9	木	生徒総会(JRC再登録式)・役員認証式・賞状伝達		
5/10	金	内科検診1年	陸上担当(郡陸上抽選会 曲中)	市校長会PM? 総体激励会・評議員会案内配布日 市教委評議員会案内送付日

② 受賞記録ベースシート (表彰式・通信簿・要録等でデータ活用)

入力者	開催日	大会名 (大会回数は半角入力) 令和〇年度はカット	カテゴリー	成績	記録	氏
佐吉	12/9・10	田沢湖スポーツセンター中学校男子バスケットボール大会		優良選手賞		高
伊運	11/16	東北電力第49回中学生作文コンクール		佳作		小
藤垣	12/26	第60回大曲仙北児童生徒新年書初め展(令和6年)	自由課題	金賞		菅

③ 出張伺フォーム ④ 欠席・連絡Form ⑤ 感染症個人入力 ⑥ 感染症集計表

R5 出張伺
出張伺への入力フォーム

3. 用務・会議名 (省略せず)

回答を入力してください

折り返しが必要な人
母携帯電話
先生_R5中
先生_R5
対応しました

	金	土	日	月	火
早	○	○	○	○	○
早	○	○	○	○	○
停	○	○	○	○	○

赤文字	土	日	月
1-1	1	2	3
1-2	7	7	8
2-1	0	0	0
2-2	0	1	1
3-1	0	0	0
3-2	0	0	0
コロナ罹患 生徒計	8	10	12

クラウドを活用した業務プロセスの改善と連絡業務・小中連携の効率化



佐々木教頭の場合



情報共有・共同編集

従来の業務プロセス

教頭・教務の情報を基に
各担当が分掌業務を立案

クラウド活用業務プロセス

全職員がベースファイルの基本情報を共有し、
各担当が分掌業務を立案

- 教育計画の作成・実施
年・月・週・日
- 職員動静・サービスの管理
出張・休暇等・日誌
長期休業・来訪者等

- 教育計画の作成・実施
年・月・週・日

- 職員動静・サービスの管理
出張・休暇・日誌
長期休業・来訪者等

ベースファイル (情報共有・共同編集)

最新情報の保持
分掌間連絡を削減
二重入力・転記ミスを防止

- 各種計画の作成・実施
学級・学年・特活・総合
検診・行事・部活動等

- 各種計画の立案
学級・学年・特活・総合
検診・行事・部活動等

クラウドを活用した業務プロセスの改善と連絡業務・小中連携の効率化



佐々木教頭の場合



情報共有・共同編集

① スケジュールワーク ～ 年間計画ベースファイル教育計画・サービス管理・各分掌でデータ活用)

日付	曜	R6行事等 (黒文字確定・青文字仮入力)	出張	給食・バス・各種締切 他
5/7	火	教育実習①～27日 (養護教諭)		学校経営要覧校内締切
5/8	水	桜守活動1年? 歯科検診2年		
5/9	木	生徒総会(JRC再登録式)・役員認証式・賞状伝達		
5/10	金	内科検診1年	陸上担当(郡陸上抽選会 曲中)	市校長会PM? 総体激励会・評議員会案内配布日 市教委評議員会案内送付日

② 記録ワーク ～ 受賞記録ベースファイル (表彰式・通信簿・要録・後援会等でデータ活用)

部活動・生徒 受賞・ボランティアの記録 成績一覧(担当者入力用)				各種通信・要録	
入力者	開催日	大会名 (大会回数は半角入力) 令和○年度はカット	カテゴリー	成績	記録
佐吉	12/9・10	田沢湖スポーツセンター中学校男子バスケットボール大会		優良選手賞	
伊蓮	11/16	東北電力第49回中学生作文コンクール		佳作	
藤垣	12/26	第60回大曲仙北児童生徒新年書初め展(令和6年)	自由課題	金賞	

クラウド活用による共同編集のメリット
・情報共有に対して、連絡が不要。用紙の節約。

- ・二重入力、転記ミスの防止。複数の目によるミスの発見
- ・教育計画作成・サービス管理・各分掌業務の立案、外部機関との連絡・予約を迅速化・効率化

クラウドを活用した業務プロセスの改善と連絡業務・小中連携の効率化



佐々木教頭の場合



Forms



Excel

二重入力の防止～入力データ徹底活用

R 5 出張伺

出張伺への入力フォーム

3. 用務・会議名

※省略せず正式名を全て入力。生徒を引率する場合は、最後に生徒引率を加える。

※センター研修はアルファベットからの番号を最初につける。複数回の講座はのローマ数字も忘れずに。 * □

回答を入力してください



校長		教頭		教務		事務		区分	1 出張(旅費あり) 2 出張(旅費別途) 3 外出(旅費なし) 4 職免 5 その他()
----	--	----	--	----	--	----	--	----	--

出張伺

申請者氏名を○で囲む

校長	教頭	武場	造江	川上	福島	戸澤	湊	藤垣	伊藤誠	三浦
田中	栗谷川	伊藤蓮	竹村和	竹村智	広瀬	猪本	杉山	高大	鈴木	クリス

別紙案件について、出張してよろしいかお伺いします。詳細はFormにて連絡します。

(別紙案件～派遣願・研修講座計画・大会要項等 ※ホチキスまたはクリップに止めて、バインダーで提出)



一覧表へ出力



旅行命令簿へ出力

クラウドを活用した業務プロセスの改善と連絡業務・小中連携の効率化



佐々木教頭の場合



Forms



Excel

Forms活用～欠席連絡・長期休業期間の健康観察による生徒相談受付

R5_中仙中学校_欠席・遅刻・早退等の連絡

お子さんの出欠に関わることや、相談したいことなどありましたらご記入ください。
もちろん、電話や対面での相談も可能です。お問い合わせ：0187-56-2328まで。

3. 連絡事項を以下から選んでください。*

- 欠席
- 遅刻
- 早退
- その他（相談など）

送信

折り返しが必要な人

母携帯電話

先生_R5中仙

先生_R5中仙

対応しました

R5 朝の健康観察

中仙中の生徒の皆さん、毎朝、からだと心の健康チェックを
体調が悪い時は、無理をせず、登校や活動を控えましょう。

7. 先生等に相談したいことはありますか。
「ある」にチェックを入れた人には学校から連絡します。

- ある
- ない

学校生活に関するアンケート（いじめ等に関するもの）の他に、毎朝、相談したいことがあるかどうかにチェックをしてもらい問題が大きくなる前に相談にのる体制をとっています。相談がある場合は、担任に通知がいき即対応することにしていきます。

クラウドの利点を生かした業務プロセスの改善・連絡業務の効率化と経費節減



佐々木教頭の場合



Forms



Excel

I. クラウドによる情報共有・共同編集、Formsの活用による業務プロセスの改善と効率化

- 年間計画を基とした校務用ベースファイルを作成、クラウドの利点を生かし、基本情報を共有、共同で編集し、他業務へ転用しました。追加や変更は適宜入力し、最新の情報を保持、また、二重入力・転記ミス等を防ぎ、担当間の連絡・確認を削減するなど業務プロセスを大幅に効率化することができました。
- 出張伺をForm入力に変更、事務担当の二重入力を回避し、派遣願・実施要項のみの提出としました。

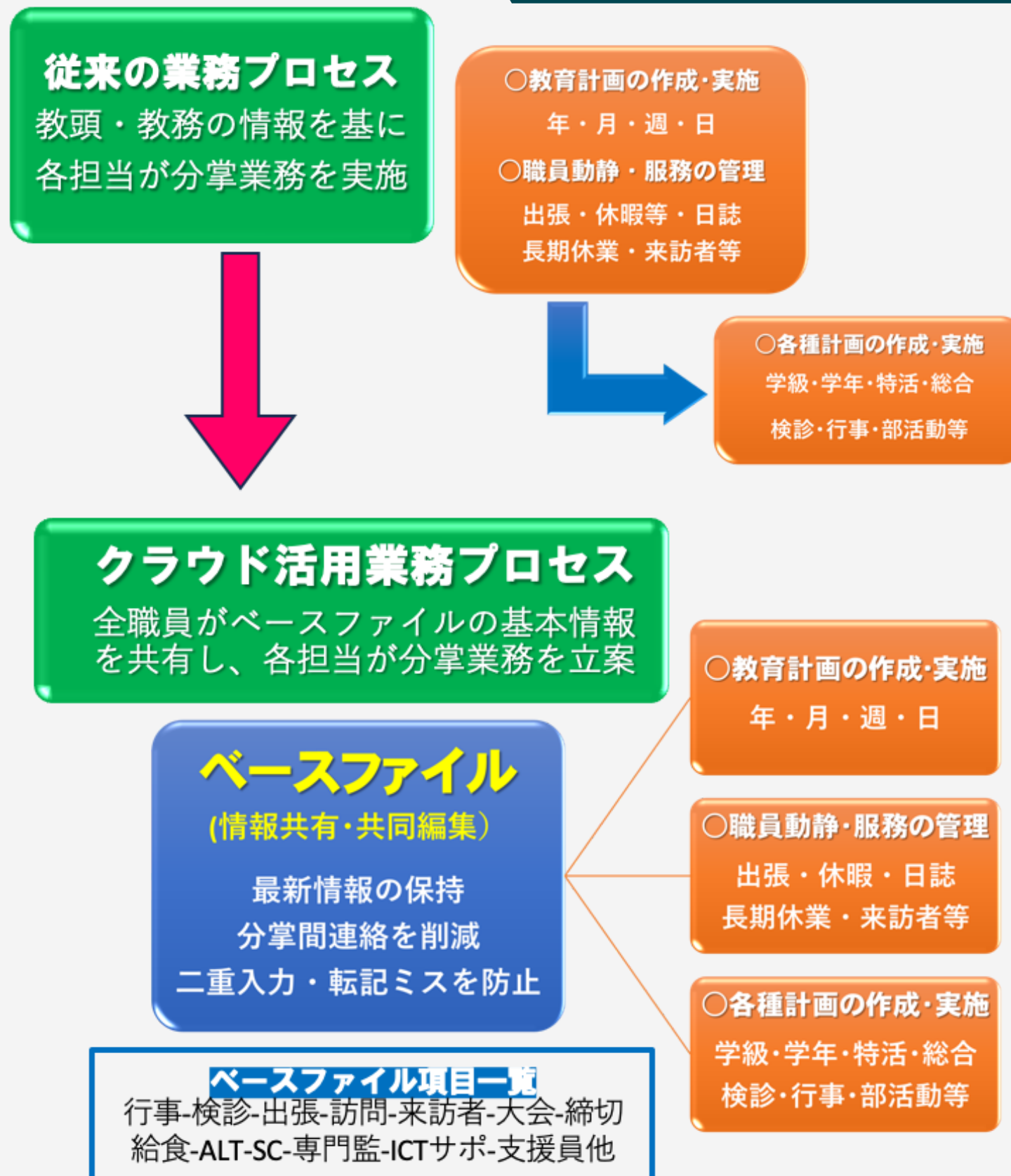
II. 欠席連絡・感染症対応・保護者との連絡業務の効率化と長期休業中の悩み相談対応の実現

- 欠席連絡を保護者がForm入力することにより、電話応対数が大幅に減少。また、感染症流行時には、出席停止生徒一覧表を職員で共同編集し、最新の情報を共有、学級閉鎖・休校等の対応を迅速に行う。
- 保護者アンケートやPTA出欠確認をForm入力に変更。
- 長期休業中、生徒の健康観察Formを作成し、登校しない期間の悩み相談に対応、生徒指導に生かす。

III. DXの推進と業務改善による印刷経費の節減

- 授業のDX（特にワークシート類）と業務プロセスの改善、Teamsによる生徒への連絡方法見直し等の相乗効果により、R4とR5の上半期を比較して、印刷関連経費の大幅な節減を達成しました。

(印刷用紙使用枚数38%減・コピー料金18%減)



共通実践

ICTスキル向上の
ための時間措置

授業外での活用

秋桜プロジェクトなど
中仙地区タイピングコンテスト

生徒会担当



生徒会と児童会をつなぐ

委員会活動DX 情報はデジタルで共有
生徒総会をペーパーレス化、委員会
活動も委員会ごとのTeamで情報共有

委員会担当



ICT専門の委員を選出し、 活動を活発化させる

- ・ ICT朝活の企画や、情報モラル集会の企画など
ルール作りや可能性の紹介などバランスを考えて
企画している
- ・ デジタルシチズンシップ教育の推進

澁江養護教諭



地域の小中合同でネット利用を考える取組

- ・ 定期テスト前の時期に小中合同でネット利用の時間を
自分で設定し制限をかける取組を行い、保護者にも協力
してもらいました。

委員会をDX

- 専門委員会をDX
- ICT専門の委員会設立
- タイピングの他、デジタルシチズンシップ教育の推進
- ネット利用のルールを自分で決め、取り組む



小中学校連携 コスモスプロジェクト



生徒会執行部の場合



中学校の生徒会活動と小学校の児童会活動をつなぐ目的で取り組んでいます。

中学校が主導する地域貢献活動（コスモスプロジェクト）を地区にある3つの小学校の6年生に説明しています。今後はそれぞれの活動を紹介し合い、地域の良さを共有します。

また、全小中でリモート会議を行い、なかせんネットチャレンジというネット利用、メディアバランスに関するルールの策定を行いました。

ICT朝活 始めました タイピングスキル向上の時間

報道委員会ICT部門の場合



毎週木曜日は、「ICT朝活」と称して全校生徒がICTに関わる活動に取り組んでいます。

初めはタイピングスキルの向上を目的として行なっていましたが、より情報活用スキルを高めるために、ショートカットキー講座やデジタルシチズンシップ講座など、ICT担当生徒が企画し、全校生徒向けに発信しています。

地区の小学校でもタイピングスキルの特設の時間を設け、スキルアップに取り組んでいます。

ICT朝活 始めました タイピングコンテスト

報道委員会ICT部門の場合



学校対抗の交流戦を実施



主催 西仙北中学校 ICT 委員会・中仙中学校報道委員会 ICT 担当

ゆき、勝負！各校のタイピング勇者

日々のタイピングスキル向上を目的にした朝活の成果を見るために、タイピングコンテストを企画しています。校内の代表選手を決めた後は、他校の代表選手と戦うという、eスポーツのような感覚で朝活をしています。

これがやる気となり、休み時間もタイピングを頑張る生徒がいます。

ICT朝活 始めました ショートカットキーをマスターせよ！



報道委員会ICT部門の場合



ICT朝活の様子。ショートカットキーをマスターする目的で、最初は講義型、その後、グループでKAHOOTを使ってクイズ形式で学びました。みんな楽しんで学んでいました。こうしたゲーミフィケーション的な要素をもっと取り入れて楽しく朝活していこうと考えています。

タイピングスキルはすでに高まっているので、情報の編集や発信に特化したスキル向上に取り組んでいきたいと考えています。

ICT朝活 始めました デジタルシチズンシップ教育

報道委員会ICT部門の場合



フェイクニュースを見破るポイントや写真から個人情報を探す活動など、様々なアプローチからデジタルシチズンシップ教育を進めていく予定です。

また、動画サイト等を積極的に活用し、朝活の時間に生徒に考えさせるような活動を行っていく予定です。NHKforSchoolを積極的に活用しながら、朝の短時間でも学びが多く、楽しみながら学べる時間にしていきます。

内容は、ICT担当の生徒が選び配信しています。

The screenshot shows the NHK for School website interface. At the top, there's a navigation bar with 'NHK for School' logo and various menu items like '先生向け ON', 'ばんぐみ一覧', 'プレイリスト', and 'おうちで学ぼう!'. Below the navigation, there's a main content area with a video player. The video player shows a news segment titled '@media' with a subtitle 'フェイクニュース ウソの情報でつくられたニュース'. The video player includes a progress bar and a '決定' button. To the right of the video player, there's a sidebar with a 'チャプター' section containing a 'scene 01' titled '金色のハクビシンが公園に出没?' and a 'ないようを読む' section with text discussing fake news and social media trends. At the bottom, there's a 'シェアする' button and a 'この動画へのリンクをコピーする' button.

NHKforschoolより

中仙地域の小学校と連携して ネット利用に関する意識改革

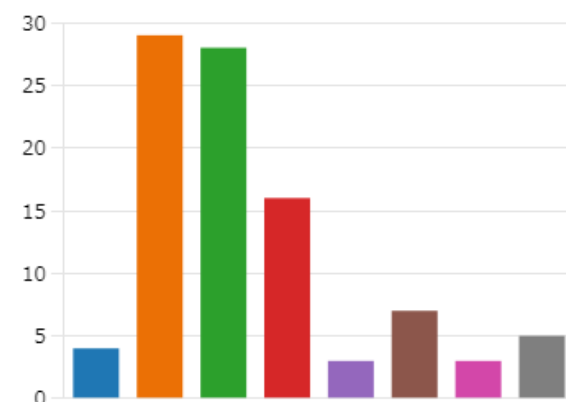
養護教諭の場合



3. メディアを使った時間

詳細 [インサイト](#)

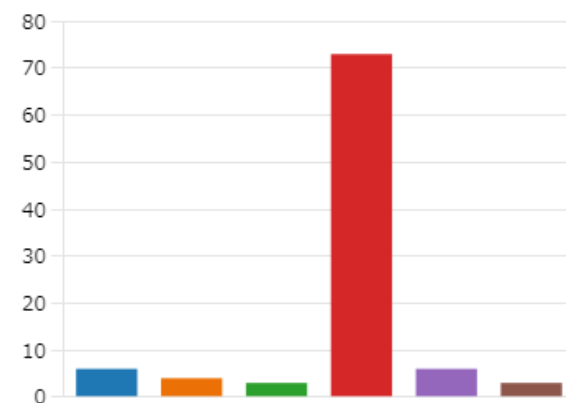
● 1日使わない	4
● 30分まで	29
● 30分から1時間まで	28
● 1時間から1時間30分まで	16
● 1時間30分から2時間まで	3
● 2時間から2時間30分まで	7
● 2時間30分から3時間まで	3
● 3時間以上	5



4. 主に使ったメディア

詳細 [インサイト](#)

● ゲーム機	6
● パソコン	4
● タブレット	3
● スマホ	73
● テレビ	6
● その他	3



5. 主に使ったこと

詳細

● ゲーム	17
● 動画を見る	46
● SNS	25
● その他	7



生徒会の保健委員会を主導に地域の小学生や中学生のネット利用の意識を高める取組を行いました。「なかせんネットチャレンジ」というもので、中学生が主体となってルールを話し合い設定し、地域の児童会とリモート会議を行いながらネット利用の実態や各校での取組などを話し合いました。保護者にも協力してもらいながら現在も取り組んでいます。生徒、保護者にアンケートをとり検証しています。（左図）デジタルシチズンシップ教育をより推進していく予定です。

アドバイザー からの助言を受けて



菅原アドバイザーより

GIGAによって「こども主体」に変革していく

**小・中の授業を見ていて
かなり使えている方である**

- 子どもの姿からは、生徒一人ひとりが使えるようになっている。これまでの取り組みを続けていくべき。

**振り返りについて
質を上げていくべき**

- デジタルポートフォリオとしての振り返り ICTの活用により相互参照できる→さらに深い振り返りになる。
- さらに視点を明確に持たせる、見通しを持たせることで質の高い振り返りになるのでは？

**生徒の選択や判断の
機会を増やす**

- 自分で決めること、自分で選んでやる、自己決定の機会が増えることで、より主体的になっていく。
- そうした場面を意図的につくっていく。

**これまでの授業を立ち止
まって考える必要あり**

**持続可能で子どもの次
の意欲になる振り返り**

**教える授業
↓
子どもが考える授業**

目指す子どもの姿

自立した子ども → 自治的に生活する集団

自立した子どもとは？

自分で自分のことを決める、そして行動に移す
自分が属する組織や集団をよりよい方向になる
ように意見を出し合い、仲間と協働して変革していく人

活気に満ちた学校へ・・・



目指す子どもの姿 「自治・自立」

「自立」した学習者の姿・・・

個人のレベルは違えど、今の自分を知り、今の自分に何が必要で、
どんなことをすべきかを自分で考え判断し、行動に移していく人。



①学級や生徒会

学級活動や生徒会活動においてそのスローガンを具現化しようとしてきた。

②授業内でできないか？

学校教育活動は、授業が大半を占めている。
その授業内で、もっと主体的に学習に取り組める仕掛けを作れないだろうか？

自己調整学習者の育成

自由進度学習??

自己調整学習者？

- ・自分から学ぶ力・自分から考える力
- ・自分から調整する力・自分から工夫する力
- ・自分から振り返る力

これまでの授業を立ち止 まって考えてみる必要あり

板書して、それを写している時間は？

ノートは何のために使うの？

綺麗に写させるため？子どもの思考を整理するため？
新たな発想を促すため？

子ども一人ひとりの考えを、黒板に書か
せる意味は？

生徒を一行に並べて丸つけする意味は？

なぜ？どんな教育的意味があるの？

主体性を引き出す鍵は、動機付け(motivation)

自律的な動機づけとは？ = 同一化と内発

「自己決定理論」

弱

外的動機づけ … 褒められたい 叱られたくない
ご褒美がもらえる

取り入れ的動機づけ … 不安だから 義務だから
恥ずかしいから

同一化的動機づけ … 大切だから 価値があるから
役に立つから

強

内発的動機づけ … 好きだから 楽しいから
面白いから

<出典> Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2017). *Self-determination theory: Basic psychological needs in motivation, development, and wellness*. New York: Guilford Press.

- 付けたいのは“自己調整”の力
- 振り返りが大切
- フィードバックが必須
- 自分づくり教育で学びに向かう力を醸成していくことも大事

振り返りについて

どのような振り返りが望ましいのか？

- 「**次の学習の改善**」につながる振り返りが、自己調整を含み込んだ「粘り強さ」を生むのではないか。
- 現状、「**次の学習の改善**」につながる振り返りができている生徒は、どのくらい？

見通し 目標の設定をどうするのか？

～できるようになる

(例)手紙を書く



どのようにできるようになる

(例)どのような手紙を書く
どのように手紙を書く

振り返りたくなる目標（課題）設定

途中チェックせざるを得ない目標（課題）設定 振り返りの視点

次は、どうなりたいのか？

どうして振り返るのか

振り返って良かった、自分の役に立ったという実感を持たせる

振り返りについて

フィードバックも大事

自己評価に対するアドバイス

- [A]ワークのC問題など、いろんな問題にチャレンジして自分の力をのばそう。また、周囲の人に教えてあげよう。
- [B]くり返し問題を解き、速く正確にできるようにしよう。基本から応用へ、学習を発展させてみよう。
- [C]教科書の例や例題を読んでワークのA問題やB問題に取り組み、基礎・基本を確認しよう。
- [D]教科書をよく読み、例や例題をまねながら、フォームやワークのA問題に取り組みよう。

友達から、先生から
何をフィードバックするのか
ここに指標を活かす？
効率的にできる仕組みも大事

学んだこと

- もっと書こう
- 理由を書いて
- 何を学んだの
- 次の課題は？
- がんばって！
- 伸びてます！
- よい自己評価
- すばらしい

- 1 復習タイプ 講義型
 - ・教師に質問する。
 - ・NHK for school等の動画資料
 - ・ワーク等の例題の解説など

- 2 復習タイプ 問題型
 - ・教科書の問題を解く。
 - ・ワークの問題を解く。
 - ・キュビナで問題を解く。

- 3 予習タイプ
 - ・教科書を読む。
 - ・NHK for school等の動画資料
 - ・ワーク等の例題、キュビナ

- 4 計算力アップタイプ
 - ・キュビナで問題を解く。
 - ・ワークの問題を解く。
 - ・問題を作りあって解き合う。

- 5 貢献タイプ
 - ・教える、ヒントを出すなど、直接的な貢献
 - ・テスト問題づくり、ポスター作りなどの発信タイプの貢献

- 6 探究タイプ
 - ・単元で見つけた「問い」の解決
 - ・パワポやcanvaで探究の成果を発表
 - ・生活と数学を結びつけたような事例を探る・・・など

子どもが自分で選ぶ

・ **キュビナで確認!**

・ **動画資料を確認!**

・ **友達同士で学び合い**

いきなり「自由に」できるとは思えない・・・という方に

全てを自由にすると逆に困惑する人がいるかもしれない。

3パターンくらい用意しておき、

自分で選ぶことから始めるのもいいかもしれない。

今自分に必要な学びを理解する

取り組み後の変容をどこで見取るか

家庭学習への取り組み方の変容

- 単なる時間を無駄に使った写しの時間になっている
- 誰のためでもない、提出するためのノート
- 埋めるために計算を大きく 4 問など

本人にとって、意味のあることをさせたい→ノートオンリーで果たしていいのか？

これまでの「秋田の」家庭学習を考え直す

- ? 全員が同じノートに書いてくる意図は何か？
- ? 家庭学習 5 教科のみの意図は何か？
- ? 盲目的に「1人1P」を強要していないか？
- ? 家庭学習は「何のために」やるのか？

自立した学習者を育成するためには、どうしたらいいのか？

提案

実験的に家庭学習の方法を変えてみては？
さらに、一定期間フォームで自分の家庭学習の
リフレクトをとり、自分の家庭学習をグラフで
見て課題を見出すことに取り組んでみてはどう
だろう。

中仙中での提案

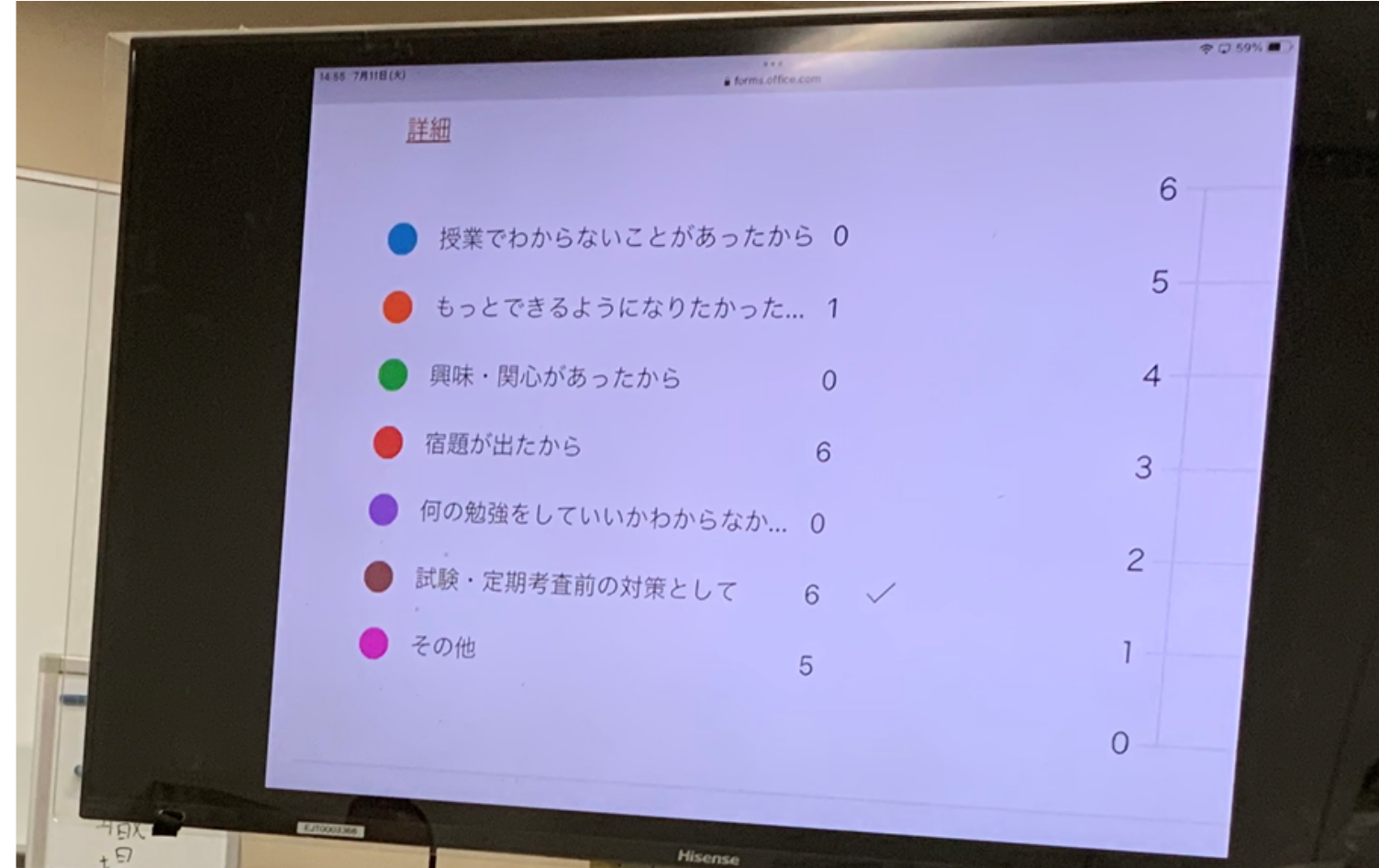
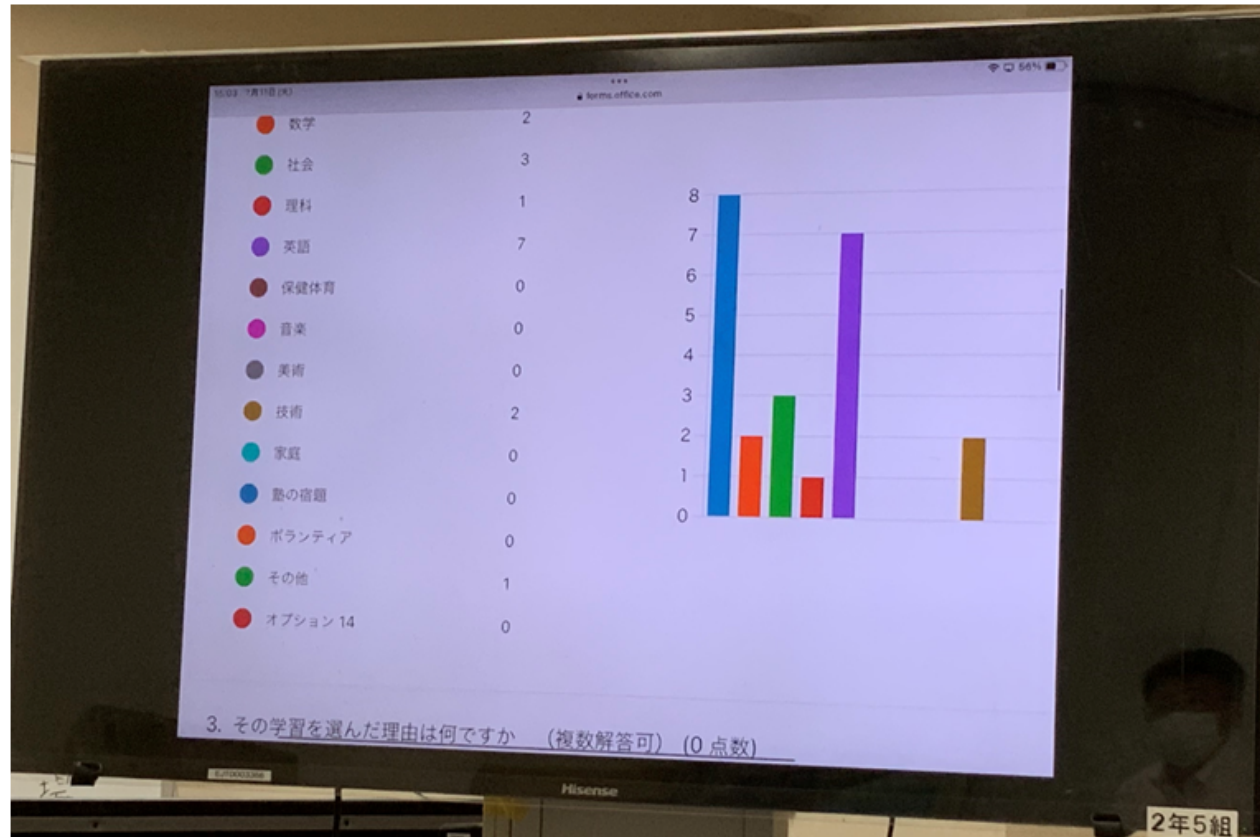
3. その学習を選んだ理由はなんですか？（複数回答可）*

- 授業でわからないことがあったから
- もっとできるようになりたいから
- 興味・関心があったから
- 宿題として出されたから
- 何の勉強をしていいかわからなかったから
- テストの対策として
- その他

4. どのような学習方法でしたか？（複数回答可）*

- まとめる（比較・分類・関連付ける）
- 探究学習（広げる・深める）
- 実際に行われた学習方法（演習・制作・発表）

家庭学習への取り組み方の変容



自分の家庭学習を振り返り、視覚的にわかりやすくすることで今の自分を知り（メタ認知）、今後どのようにしていくべきか考えることができる（できやすくなる）

世田谷区立芦花中学校さんの取組を参考にさせていただきました。

2年部では、毎朝家庭学習のリフレクションを付けさせ自分の取組を記録しています。月に2回ほど教員と生徒で面談をし、このリフレクションをもとに学習の進め方や効果などを話し合い、試行錯誤をさせています。学ぶことの意味をしっかりと考えさせ、意味のある時間を創り出す、そして自立した学習者になるための取組です。

講演会振り返り

2024. 1. 12

対面参加 : 75名
リモート参加 : 9名
オンデマンド視聴 : 17名

中仙地域

リーディングDXスクール 研修会 & 講演会

今年度、中仙地域（豊成小・中仙中学校）がリーディングDXスクール事業の指定を受け、日々の学校生活（校務・授業・学校間連携等）の中でICTを活用し授業改善や校務の負担削減について研究を行ってきました。今回は、これまでの取組を紹介し、どの学校でも活用できる実践やヒントを多くの先生方と共有したいと考えています。

また、この度、東京学芸大学附属小金井小学校のお二人の先生をお招きし、DXスクールの最前線の実践を紹介していただく機会をいただきました。ICTに興味のある方はもちろん、今後の学校教育やインクルーシブ教育などに興味のある方は是非ご参加ください。

演 題

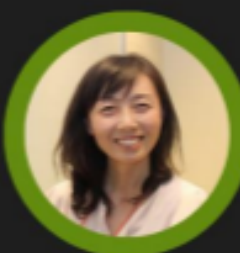
ICTを活用したインクルーシブ教育の実現



鈴木 秀樹 先生

東京学芸大附属小金井小 教諭

ICTを活用したインクルーシブ教育の実現が主要研究テーマ。生成AIを授業で活用する研究にも取り組んでいる。【著書】ICT×インクルーシブ教育 誰一人取り残さない学びへの挑戦



佐藤 牧子 先生

東京学芸大附属小金井小 養護教諭

校内ではICTを活用したインクルーシブ教育に取り組む。学校外ではマイクロソフト認定教育インベーター、大日本図書教科書編集委員などとして活動。

リモート参加・オンデマンド希望の先生方へ
リモート・オンデマンドの方も申し込みをお願いします。
Teams内にある「教育研究所」チームのRoom 03で配信予定です。参加できない方でもRoom 03で録画された講演を是非お聴きください。

主催：豊成小学校、中仙中学校
お問い合わせ：中仙中学校 LDX担当 田中真二郎 0187-56-2328



2024
1月12日(金)

中仙市民会館
ドンバル ホール

◆タイムスケジュール◆

9:10 受付
9:30 開会
9:35~ 実践発表
豊成小/中仙中
これまでの取組について
10:20~ 講演
11:50~ 質疑応答
12:00 閉会



※参加できない教員のために、
オンデマンド視聴の準備を実施予定

QRコードからお申し込みください。



Friday 12.Jan.2024

豊成小の取り組み

中仙地域リーディングDX研修会



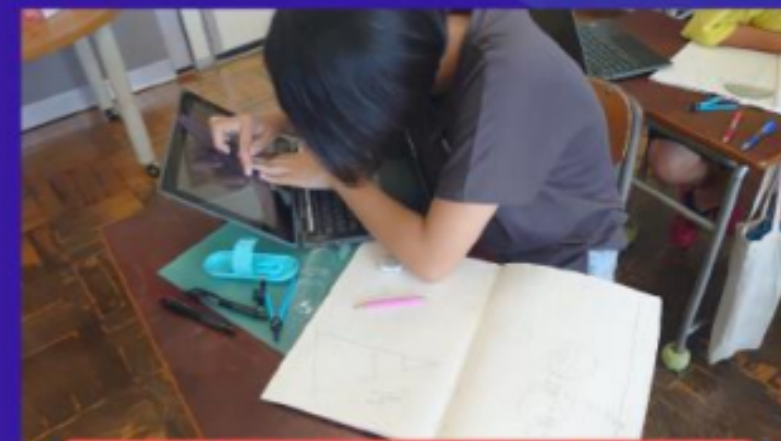
大仙市立豊成小学校 ICT担当 後藤 宏佑

1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化

クラウドの活用



複線型の授業を目指して



振り返りのさらなる充実

2 オンラインを活用した授業等

外国語 【他校の6年生と自己紹介】

不登校傾向児童のオンライン参加

中学校区オンラインミーティング

3 持ち帰りによる家庭学習の充実

学びの選択肢

AIドリルQubenaの活用

タイピングスキルの上達

学び直し

家庭学習の履歴

4 徹底的な校務の効率化

職員間

共同編集

会議ペーパーレス

電子掲示板常設

おたより配付

SB/児童クラブ利用

学校評価 面談希望

家庭

職員研修

指導案検討

授業参観 研究協議

ICTミニ情報

保健室利用調査

学校生活アンケート

生徒指導



学年専用パスワード配付



5 特別活動で

児童会/係活動の活性化

Canva



おわりに

まずやってみる
精神
トライアル&エラー

職員・保護者の
理解

子どもたちの
わくわく感

「授業」



Forms

- ・保健室の来室記録
- ・保健関係（心の健康観察）アンケート
- ・学習の振り返り



Power Auto...

- ・出欠席・健康観察一覧表
- ・イベントの申し込み・自動受付



OneNote

- ・子供の観察記録
- ・会議記録



Teams

- ・（同期・非同期）情報・記録の共有
- ・ハイブリッドイベント
- ・子供との面談、相談 など



PowerPoint

- ・保健指導・授業の資料
- ・保護者イベントの講話資料

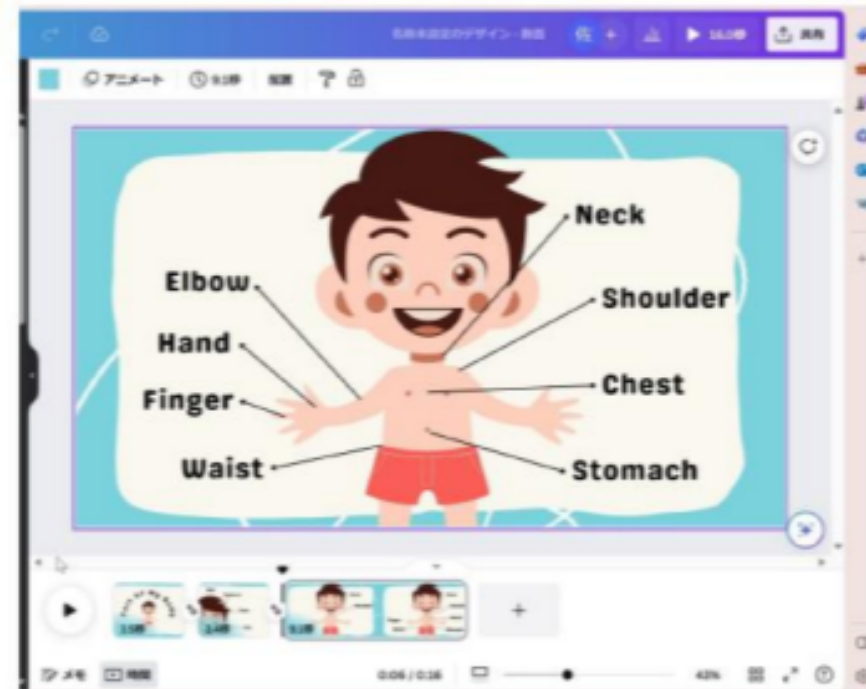
NHK for School

Canva

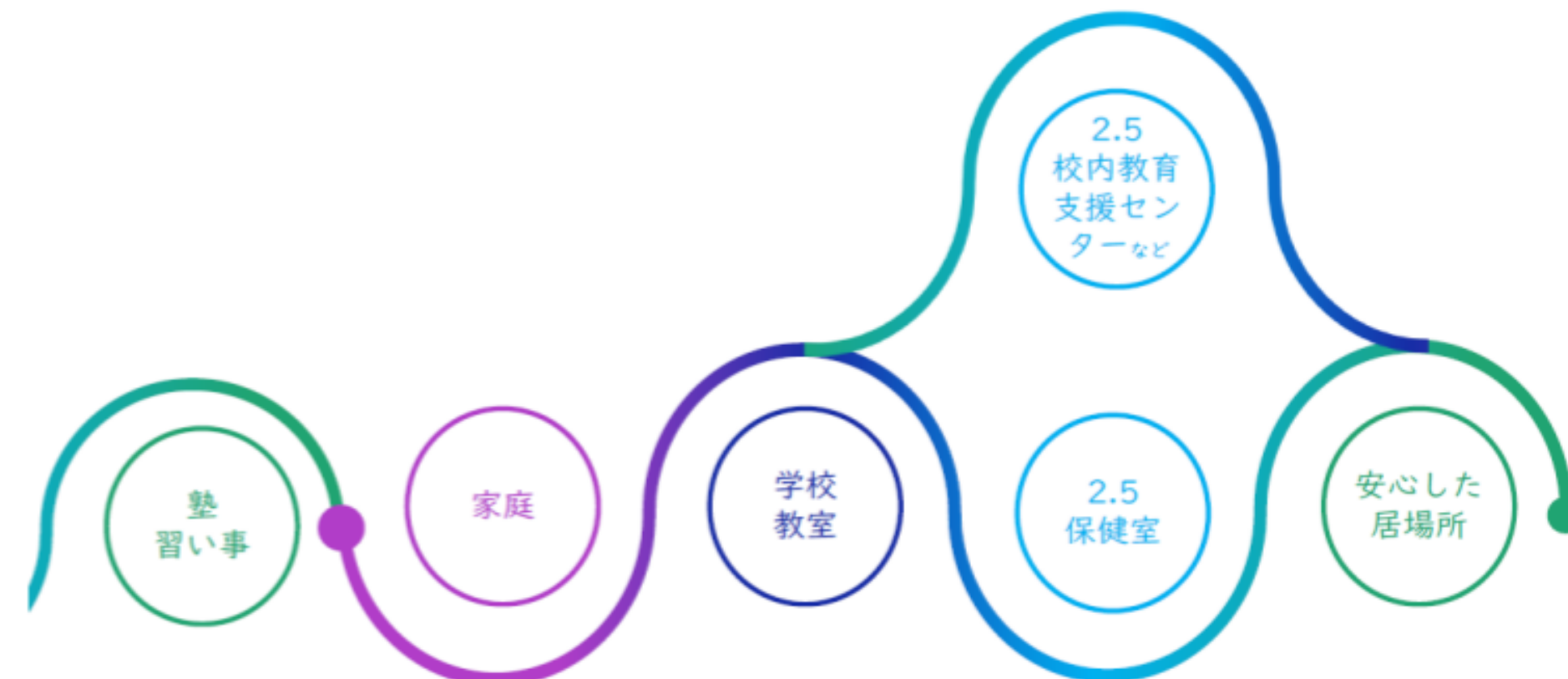
:Padlet

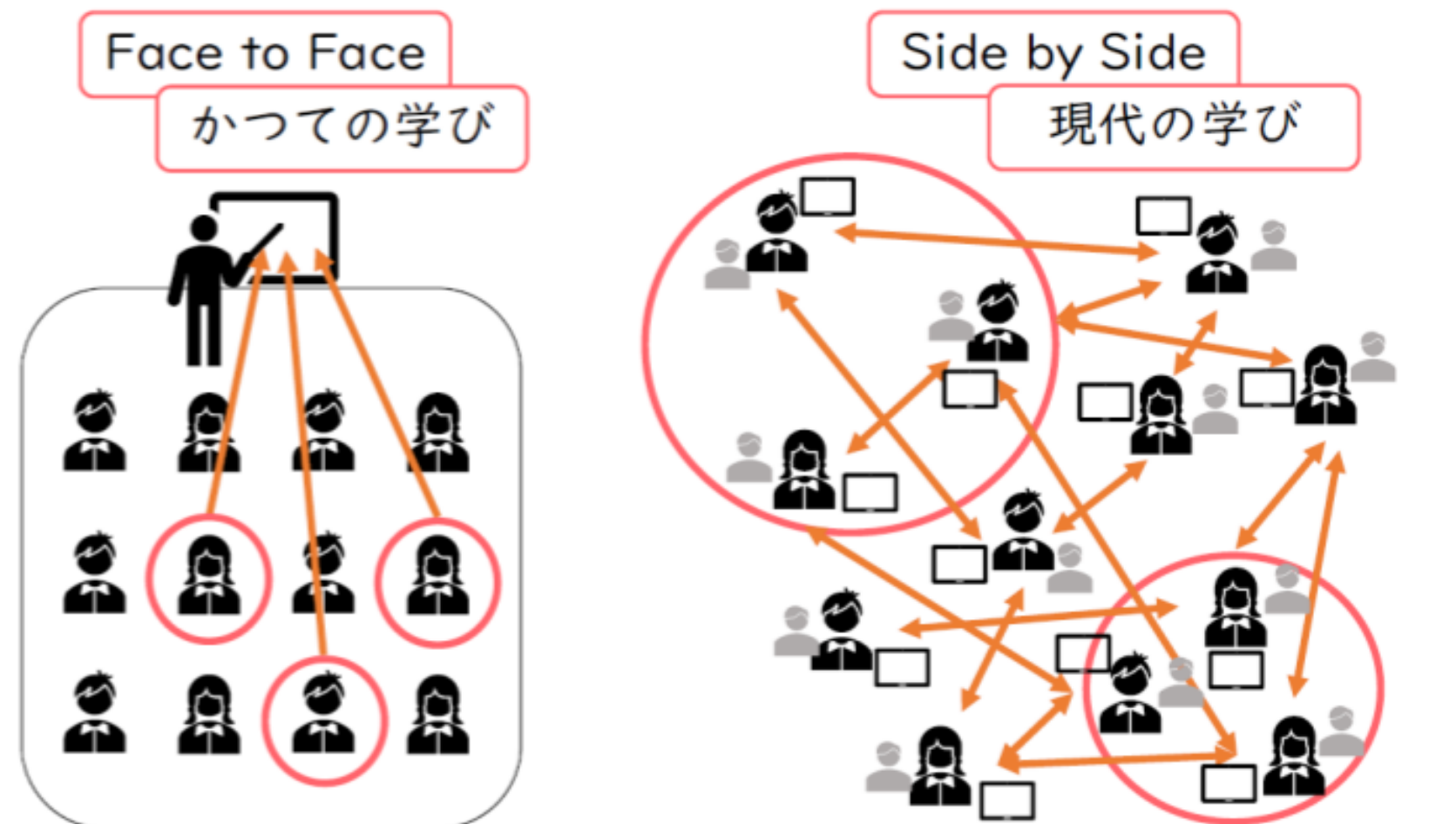
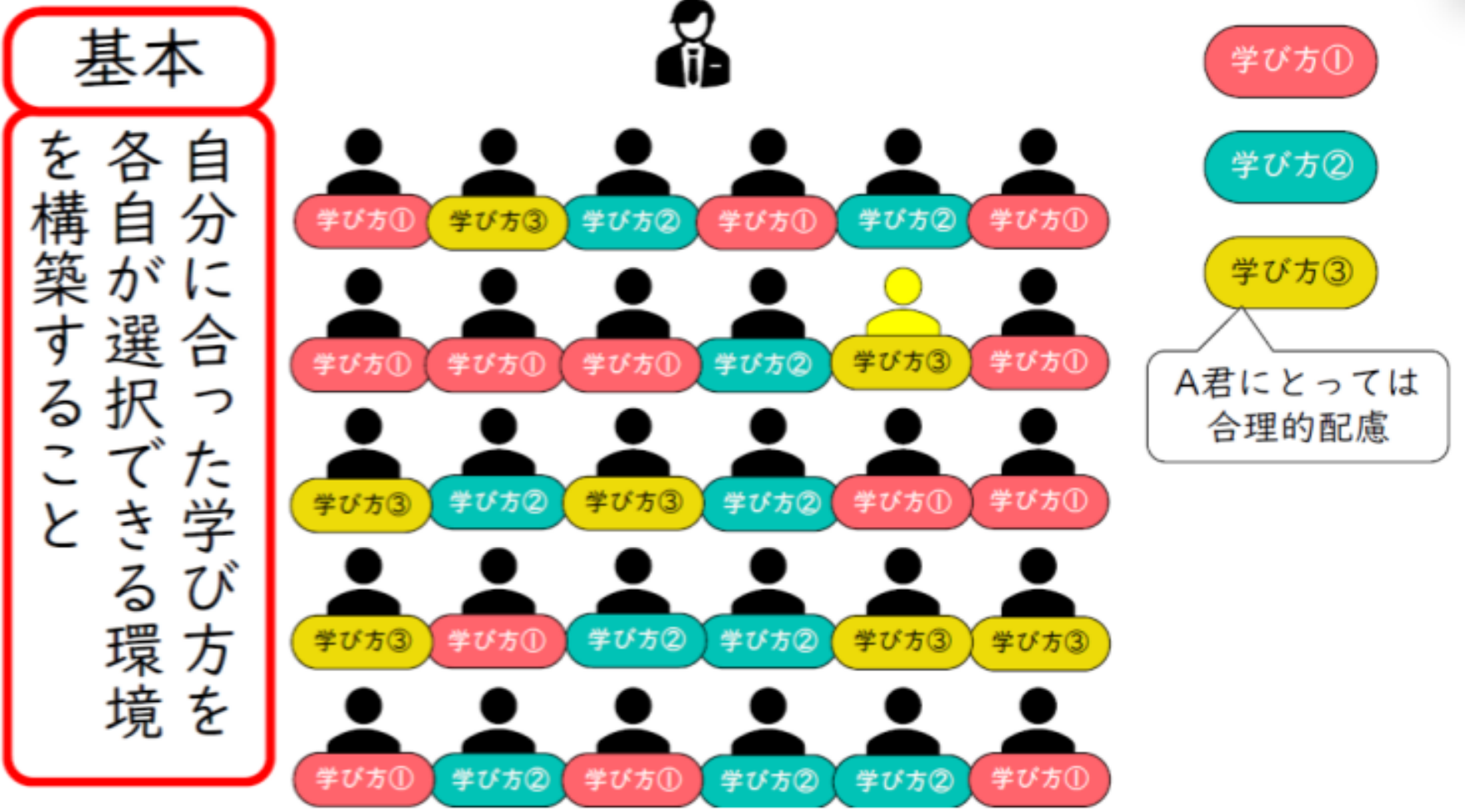
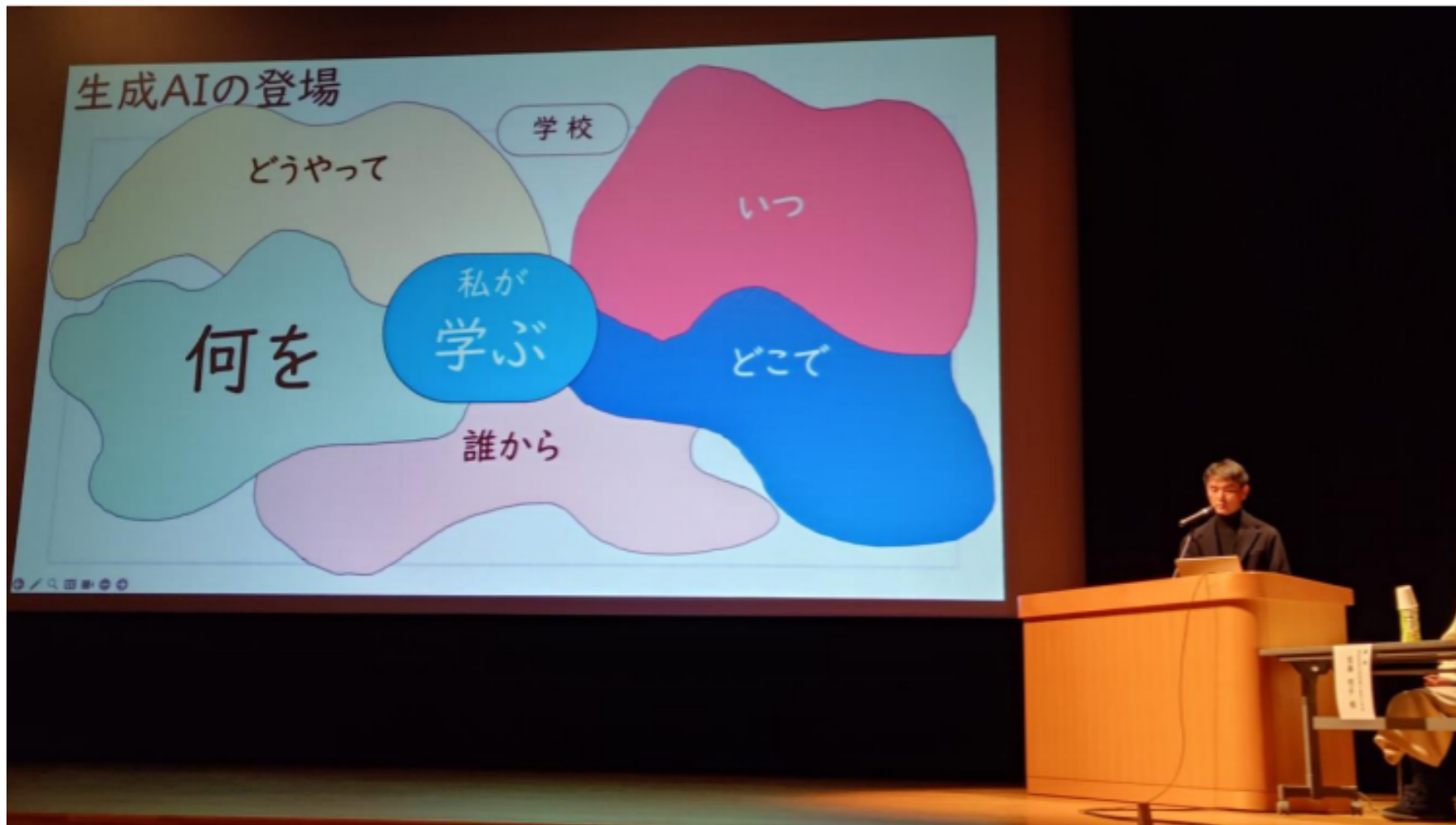
YouTube JP (文科省)

ドロップレット・プロジェクト



自分に合った学び方を見つける2.5プレイスの構築



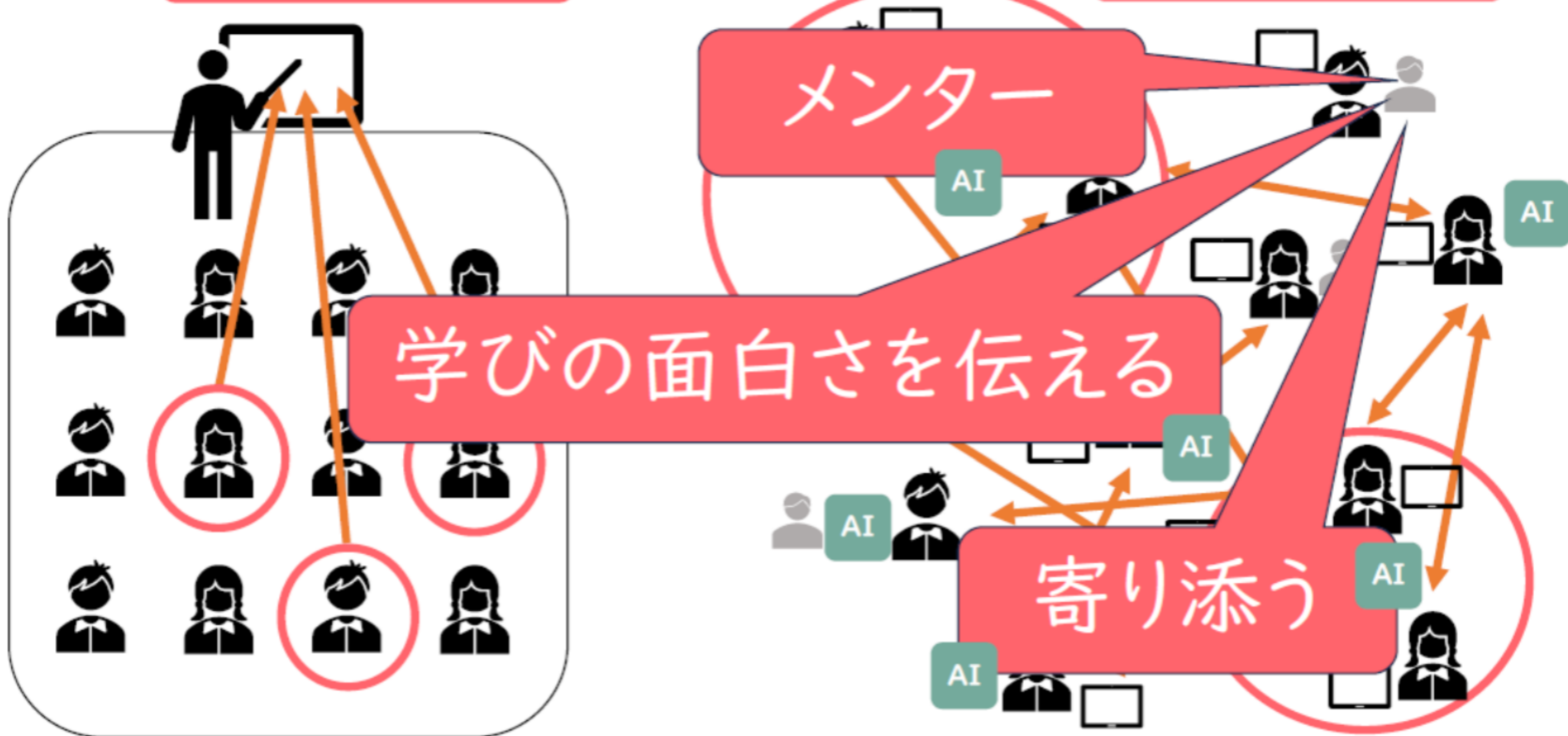


Face to Face

かつての学び

Side by Side

現代の学び



特に印象に残っているものや学びの多かったものについて

AI活用について、「この部分は自分の頭を使わないとだめなんじゃない」と使ってみて気付かせてというICTとの付き合い方に共感しました。よいものを取り入れることは大切ですが、どんなことも「バランス」だと思っています。それ教にならないようにバランスよくかかわることができるように子どもたちにもICTと付き合わせていきたいと考えています。

子どもたちが考えながら学んでいるということや「私が学ぶ」ということが印象に残りました。

生成AIの活用について勉強になりました。私自身の経験から、職員会議や研修などの内容や進行方法などについて、頭を悩ませ時間をかけてしまうことが多い場面がよくあります。AIに情報を与え、一つの例を求めることは非常に効率的になるなど感じました。業務改善に役立てたいです。また、授業や特別活動でも教師が積極的に選択肢を増やし、自分に合った方法を選択できる環境を整えていきたいです。ご講話いただきありがとうございました。

豊成小学校と中仙中学校の実践紹介がとても参考になりました。チャットとペーパーの煩雑さに苦慮していましたので、経費削減、時間短縮の数字的データはとても説得力がありました。後日詳しく教えていただきたいので、直接連絡させていただきたいと思っております。また、学校現場でのAI活用についても勉強になりました。早速、職員にも視聴を勧めました。

年間スケジュールなどをクラウドで共有し、作業の効率化をしていること。生成AIの活用方法。

研究校のICTを使った業務改善の進め方がとても、先進的で参考になりました。本校でも推進していきたいと思いました。

各校で工夫された実践内容
容

講演会から伝わる熱い思いと実践内容

豊成小学校の6年生が実践している普段使いのICT、中仙中学校が実践している校務のICT、講師の鈴木先生から教えていただいた生成AIの活用方法（特に複数の児童からの意見をAIにまとめさせる使い方、自作の指導案をAIに添削させる使い方）

豊成小学校や中仙中学校の実践例の紹介

豊成小で様々なアプリを使いこなしているの、使ってみたいと思った。振り返りのエクセルのファイルはすぐにでも使えると思った。

中仙中学校の校務のICT化と鈴木先生のインクルーシブ教育、生成AIについての講話

様々なアプリの活用の仕方や実践について学べたこと。AIを活用すること。

指定校両校の実践発表が素晴らしく、しかも、できるかも、やってみよう、という気持ちを強くもつことができた。講師の先生方からは、それを効果的に進める上で大事にすることを現場目線でご教授頂くことができた。大変、実りある研修となった。ありがとうございました。

鈴木先生AIについての講話の「指導案を放り込む」「スピード感」に衝撃を受けました。また、今年度研修の中でも単元構成の重要性を学びました。こどもの学びを成立させるための教師の構成力には磨きをかけていかなくてはと思います。

これからは生成AIが教育の中に入ってくるのだろうなという実感がわいてきました。また、改めて事項で行っているLDX事業は、ここで終わるのではなく、もっと進んでいかなければいけないと感じました。（挑戦する気持ちを忘れないで取り組んでいきたいと思っています。）

本講演会 & 研修会を受けて、ご自身の職場でやってみたいこと



様々なアプリを使って授業を行ってみたいです。やってみた先生方が投稿してくれるので、中仙地域で共有しながら興味あることを行えることは取り組みやすいのでとてもいい環境にありがたく思います。

自分があまりにもできないと改めて思いましたが、自分自身が楽しいと感じることが大事だと学んだので、少しずつできそうなことにチャレンジしてみたいです。

行事の内容の改善など

特に公務支援システムが導入されますので、その前にその良さを感じるような活用（年間行事予定や欠席連絡）をしてみたいと思いました。家庭への通信等にも利用していきたいと思っています。

感染症での出席停止者の情報共有のデジタル化。

ICTを活用した業務改善。学校配布物のペーパーレス化や保護者の欠席届等

生徒に学ばせる姿勢

校務のICT化と生成AIの活用

朝の出席連絡の電子化

パワーポイントを使った共同編集。個人的にパワーポイントを使いこなせていないので、がんばってみたい。

AIを使った授業をしてみたい、パワーオートメーションを使用してみたい。

職員室での情報共有、授業でAIを使ってみること。

業務改善への効果的なICT活用

校務においては大きな変化があり、楽になったことも多くあります。一方、授業改善においてはどうか。そこが肝だと思うので、さらに研修を進めたい。（まだ漠然としています。）

今まで行ってきたことをもとに、授業にどのように生かせばいいのかが、効果的な活用の仕方をもう少し考えて行わなければいけないと思いました。それが、子どもたちの学力向上に果たして役立っているのかの検証も必要かなと思います。

ご自身の職場におけるICT活用の課題・要望など

やりっぱなしにならない、与えっぱなしにならないことが課題と考えています。子どもたちは制限がかかっているものでもそれをくぐり抜ける方法を見付けることができると身をもって感じています。だからこそ子どもたちと一緒に使う、関わるのが大切だと感じました。

本校では、ICT活用は進んでいる方だと思います。保護者とのやりとりや、月予定の決定、生徒の表彰のとりまとめなどは、さらにICT化を進めていけるといいなと思います。また、授業に関しては電子黒板を増やしてもらいたいです。

年齢層とはいいませんが、やはり、「やってみよう」という声よりも「んー」と戸惑う声が聞こえてきます。若い先生を中心にまずはチャレンジする雰囲気づくりが大切だと思っています。私は苦手、私は無理・・・の考え方をどうすれば柔軟にできるのでしょうか。今後も先進的な取り組みをしていただき、ぜひ、心広く情報提供していただければと思います。

学校に勤務し始めてから1ヶ月なので、課題・要望などまでにはたどり着きませんが・・・、研修内容で取り入れられたらいいなと思うことがたくさんあったので、周りの先生方にお聞きしながら、ICT活用ができるように頑張ろうと思いました。

今、配布されているICT機器やソフト等では、どうしても活用を進めきれないことを感じます。研究校のPadletやCanvaの活用がとても参考になりました。

業務のICT化がすなわち業務改善（業務の効率化）に必ずしも結びつかない場面もあるのではないかと感じる場合があります。逆に、全職員が協力してICT化を推進していくべき場面（新しいことを定型化することに抵抗を感じてしまいなかなか取り組めずにいる場面等）も多く残されているようにも感じます。時にはボトムアップ、時にはトップダウンのICT化が推進の課題ではないかと考えます。

Metamojiは同じ学校の先生の実践はいつでも見ることができるが、他の学校の実践が共有化がきれないので、個人レベルでもいつでも見られるといい。

校内でネットにつながらない場所があること。校務等で活用がなかなか進まないこと。

業務改善への効果的なICT活用

ICT、立ち止まっていたはいられません。気軽に「教えて」が言える環境だったこの1年に感謝。今後もそんな環境づくりをしていけたらと思っています。

ICT担当にばかり頼るのではなく、自分でも効果的に活用できることを増やしていかなければいけないかなと思います。

LDXS講演会 & 研修会アンケートから

今後は、本地区で行った取組を大仙市や秋田県内に横展開していく。引き続き、ICTによる業務改善に取り組み、生徒も教員もより創造的に学校生活を過ごせるようにしていきたいと思っています。何かご不明な点がありましたら、中仙中学校へご連絡ください。



創立 60 周年 令和 5 年度 生徒会テーマ



新時代



心豊かに たくましく 明るくさわやかで 活気に満ちた中仙中学校



大仙市立中仙中学校

〒014-0207

秋田県大仙市長野字新山5の1

TEL : 0187-56-2328

E-mail : ns-nakasentyu@edu.city.daisen.akita.jp